

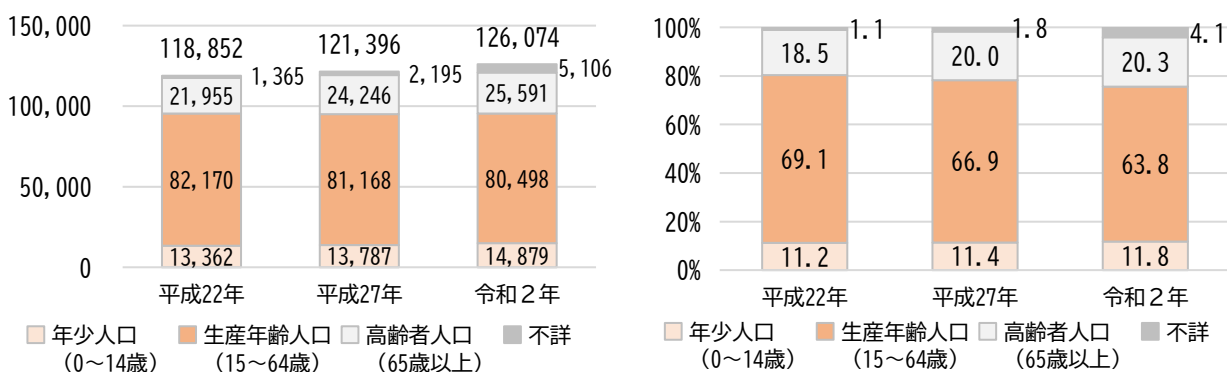
第2章 小金井市のこども・子育てを取り巻く環境

1 人口・世帯・人口動態等

(1) 人口の推移

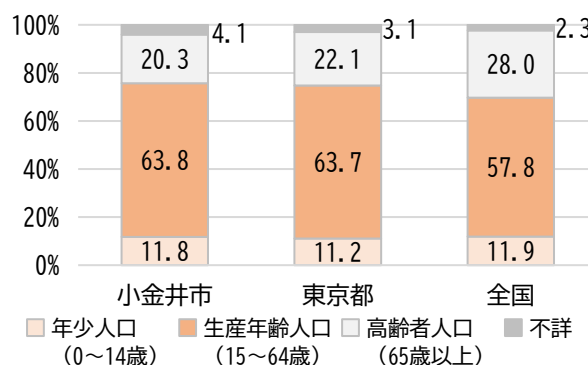
小金井市の人口は長らく増加傾向が続いており、年少人口も平成22年からの10年間で1,517人増加して令和2年は14,879人となっていました。この数年は横ばい状態となっています。

■年齢3区分別人口数及び割合の推移（国勢調査）



小金井市の人口割合は、全国及び東京都に比べると、生産年齢人口割合は高く、高齢者人口割合は低くなっています。また、年少人口割合は全国より低いものの、東京都よりは高くなっています。

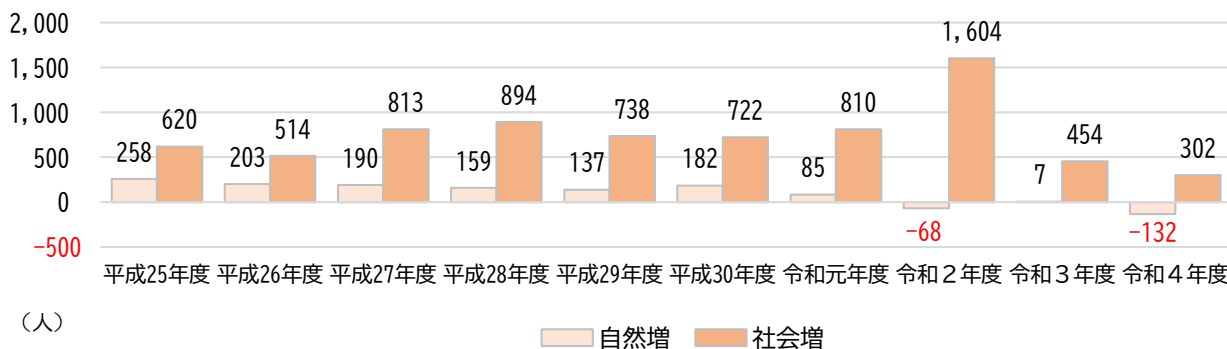
■令和2年人口割合の推移（国勢調査）



(2) 自然動態・社会動態

小金井市の社会動態（転入―転出）は、各年度で数のばらつきはあるものの、ここ10年間はプラスで推移しています。また、自然動態（出生―死亡）はプラスの年度が多いものの、令和2年度、及び令和4年度においてはマイナスとなっています。

■自然動態・社会動態の推移（小金井市事務報告書）



(人)

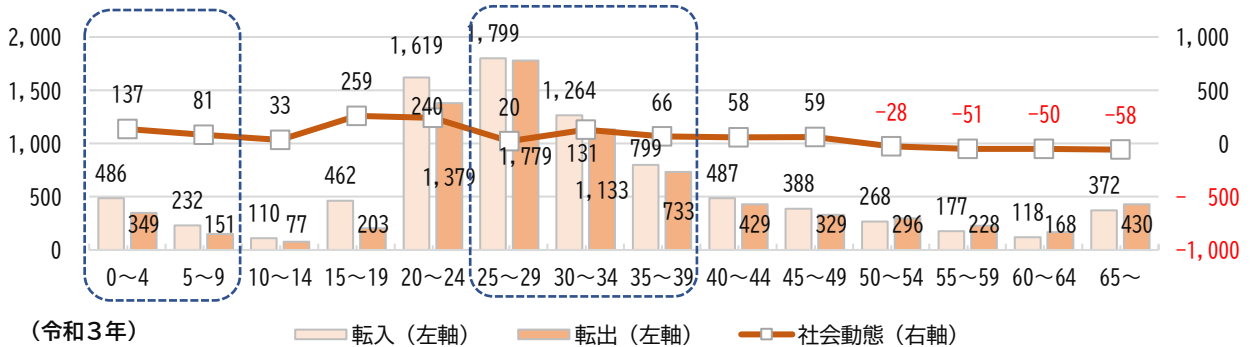
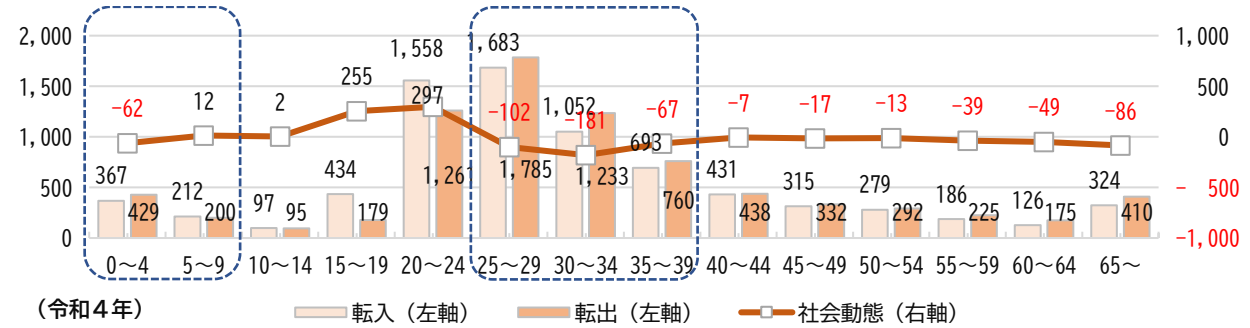
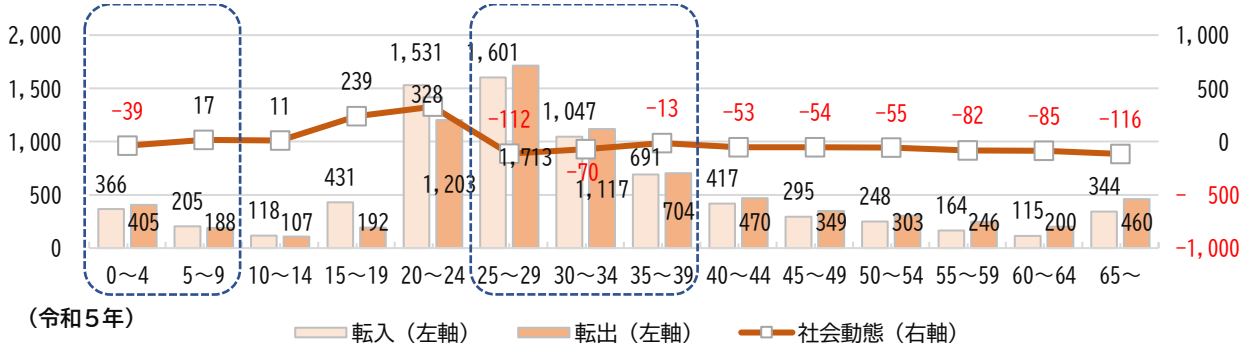
自然増 社会増

(3) 転入・転出の状況

小金井市の社会動態は、令和3年までは増加（転入超過）で推移していましたが、令和4年、令和5年と減少（転出超過）しています。

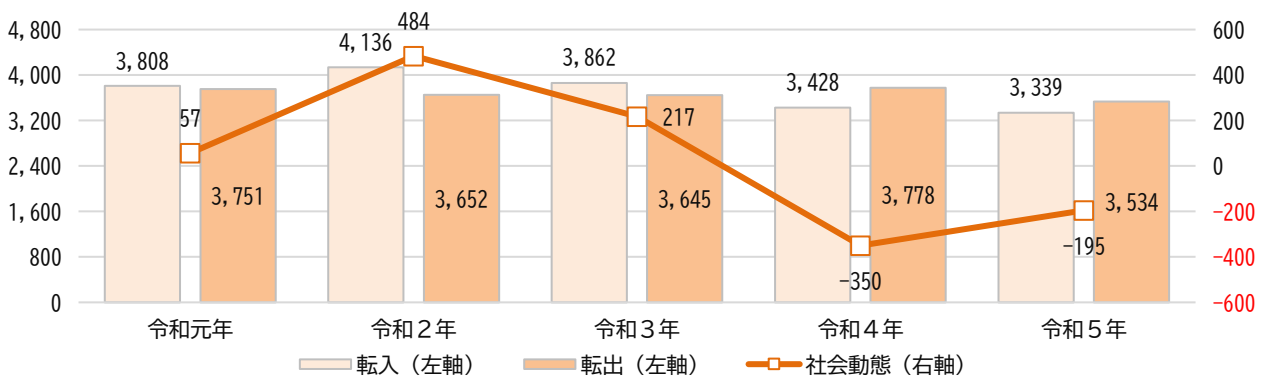
■ 5歳階級別転入・転出の状況（住民基本台帳人口移動報告年報）

(人)



■ 25歳～39歳の転入・転出の推移（住民基本台帳人口移動報告年報）

(人)

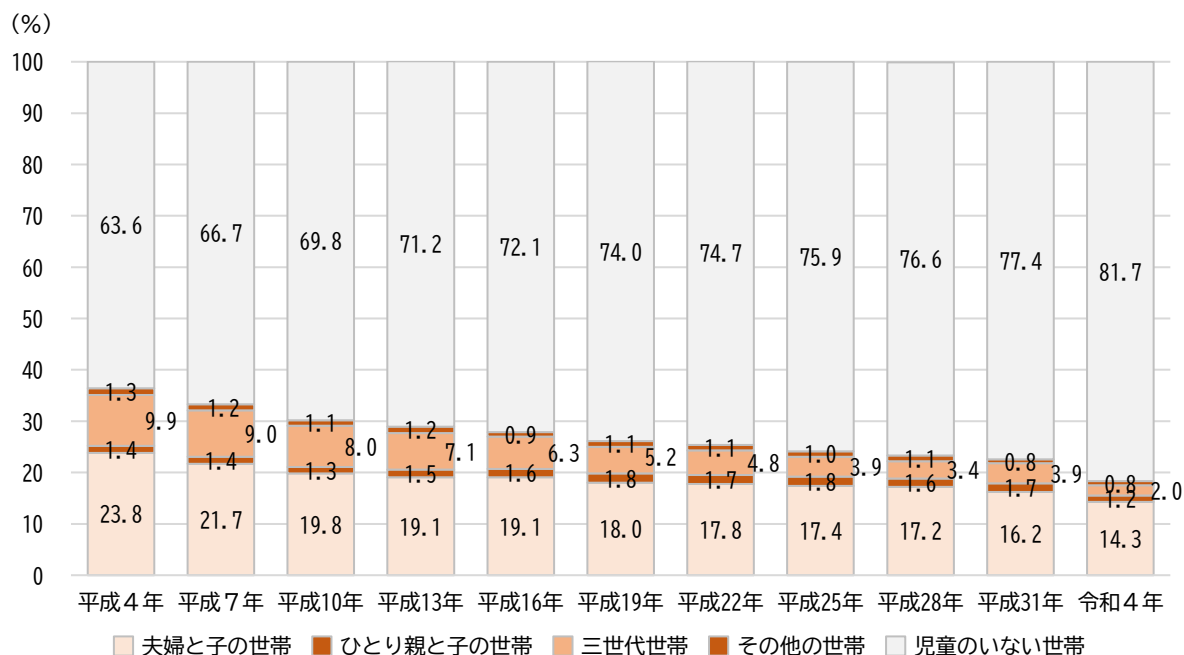


(4) 児童のいる世帯の変化

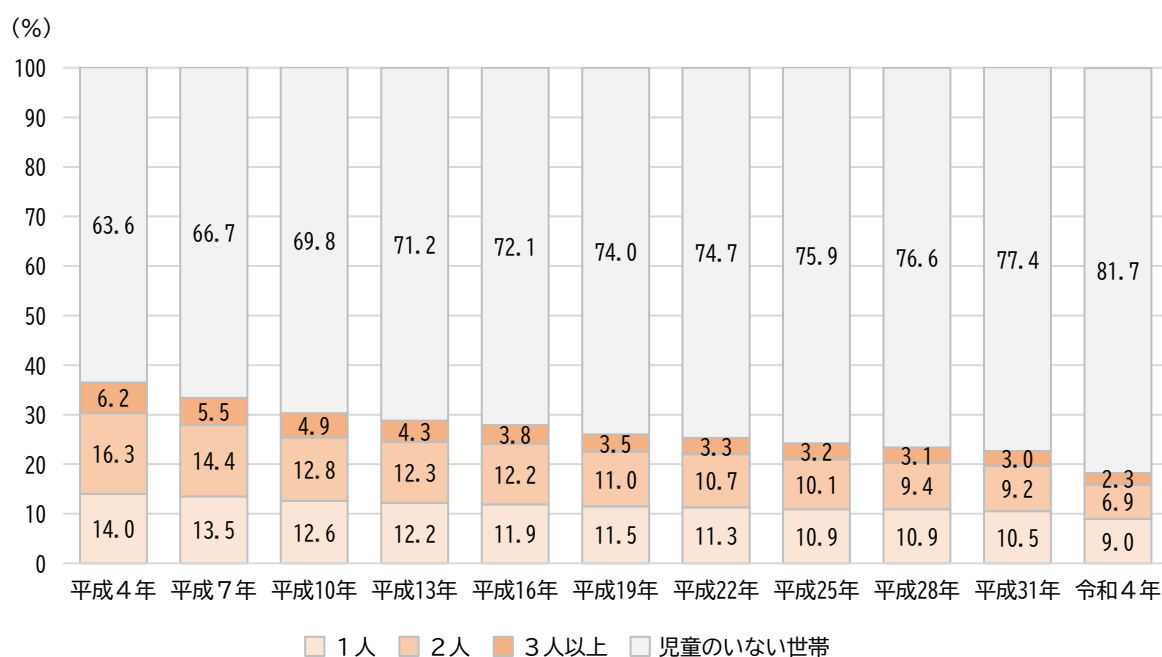
過去約 30 年間の年次比較をみてみると、夫婦と子の世帯が増加する一方、三世帯世帯が減少しており、核家族が進んでいることがわかります。

また、令和4年で児童のいる世帯は、全世帯の 18.3%、平均児童数は 1.66 人となっています。世帯数の構成割合・平均児童数の年次推移で令和4年をみると、児童が「1人」いる世帯は全世帯の 9.0%、「2人」いる世帯は 6.9%となっており、児童がいない世帯は、全世帯の約 81.7%と少子化が進んでいるのが、全国の統計からもみてとれます。世帯構成の変化によって子育て環境は変化をしています。

■児童の有無別にみた世帯構造別世帯数の構成割合の年次比較（厚生労働省・国民生活基礎調査）



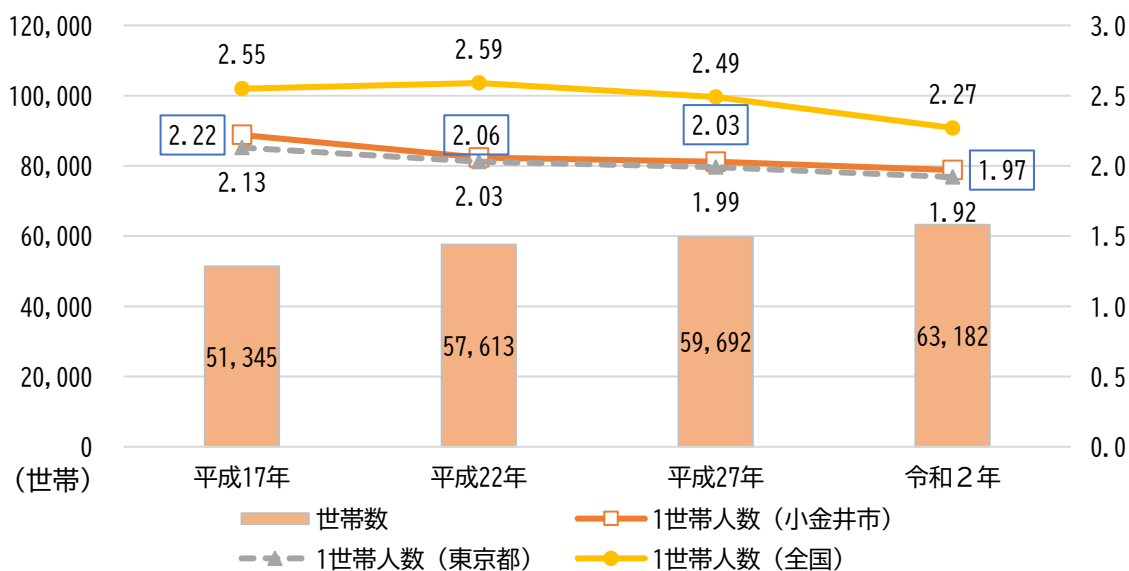
■児童の有無及び児童数別にみた世帯数の構成割合（厚生労働省・国民生活基礎調査）



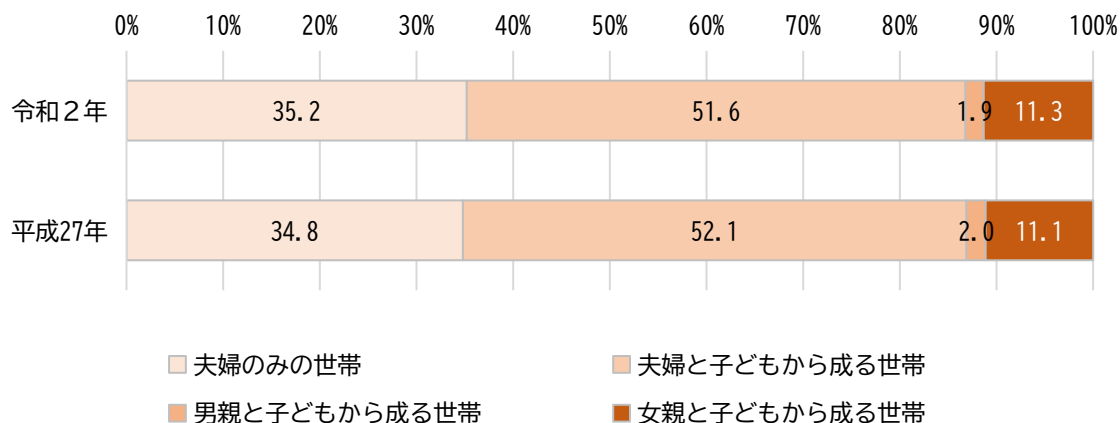
(5) 世帯の状況

小金井市の世帯数は増え続け、平成17年からの15年間で11,837世帯増加して、令和2年には63,182世帯となっています。一方、1世帯あたりの人員は減少し続け、核家族化が進展しています。核家族世帯の構成比では、「夫婦と子ども」、「男親と子ども」の世帯割合が微減、「夫婦のみ」、「女親と子ども」の世帯割合が微増しています。

■世帯数および1世帯あたり人員の推移（国勢調査）



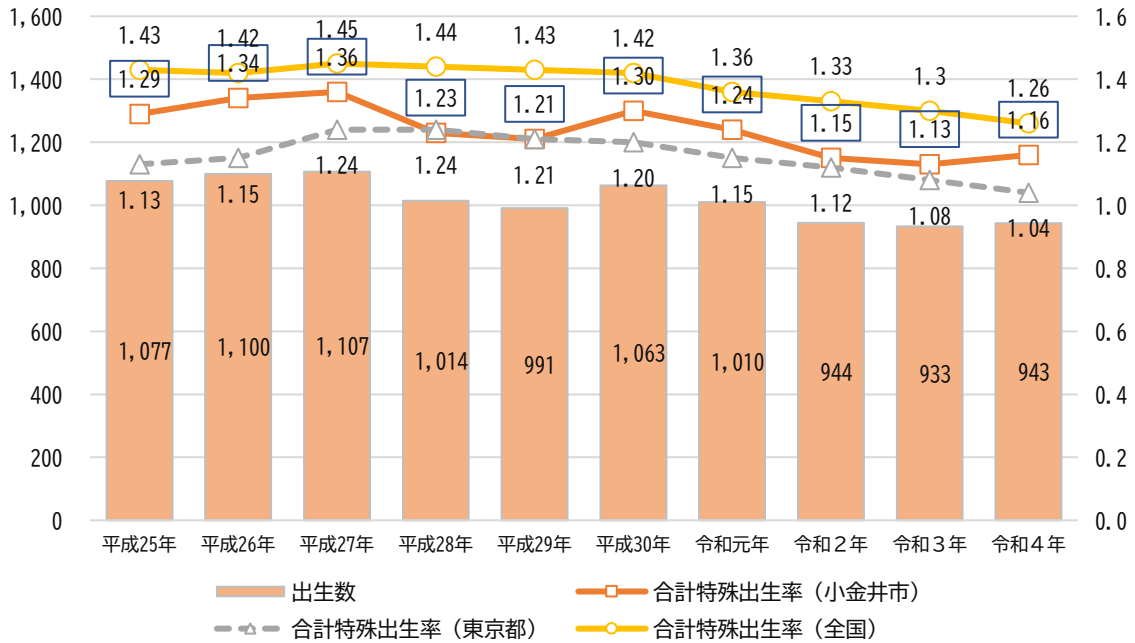
■核家族世帯の構成比（国勢調査）



(6) 出生の状況

小金井市の出生数は、平成25年から10年間で134人減少しています。合計特殊出生率は全国よりも低く、また、平成27年の1.36をピークとして以降は増減を繰り返しながらも減少傾向にあり、令和4年は1.16となっています。将来にわたって人口水準を維持できる2.07には至っていないため、転入や高齢化を除く自然動態では人口減少が進むとみられます。

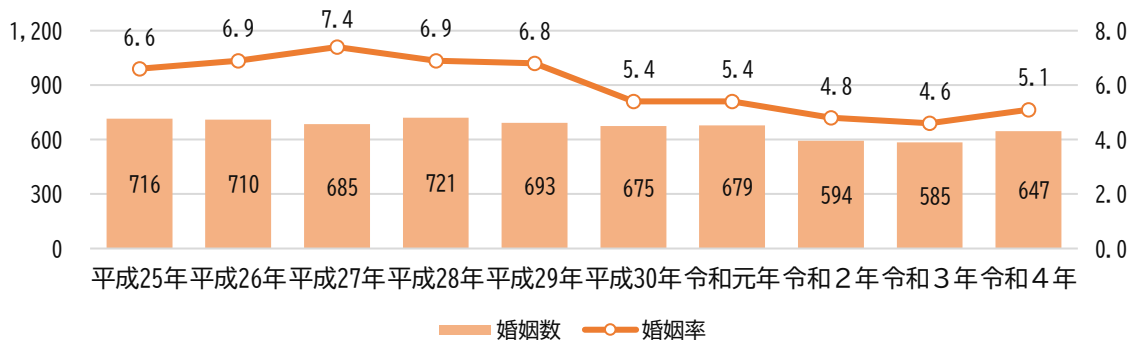
■出生数及び合計特殊出生率の推移（東京都福祉保健局 人口動態統計）



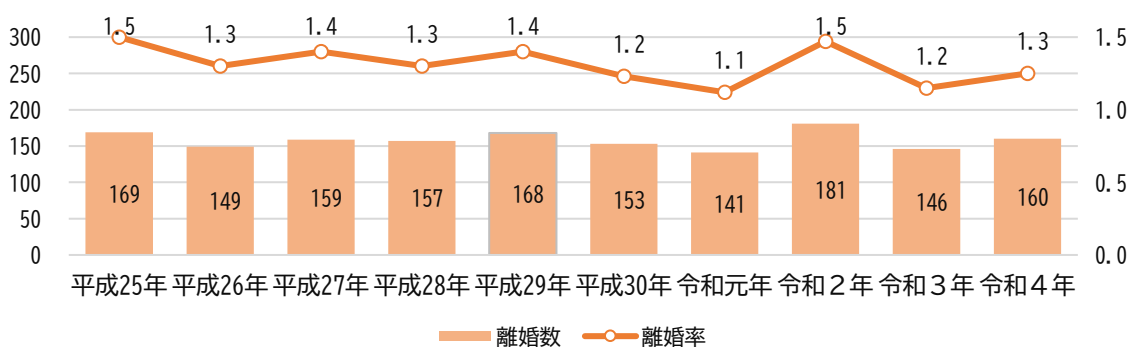
(7) 婚姻・離婚の状況

小金井市の婚姻件数および婚姻率は、年による増減があるものの、ゆるやかに減少しています。また、離婚件数および離婚率は、年による増減があるものの、横ばい状態となっています。

■婚姻件数および婚姻率の推移（東京都福祉保健局 人口動態統計）



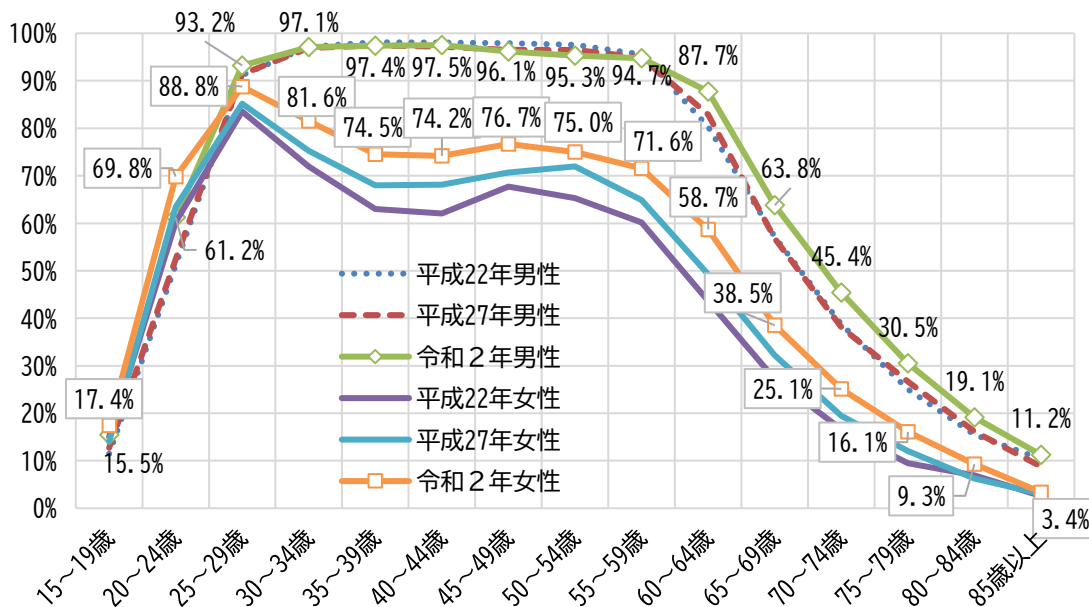
■離婚件数および離婚率の推移（東京都福祉保健局 人口動態統計）



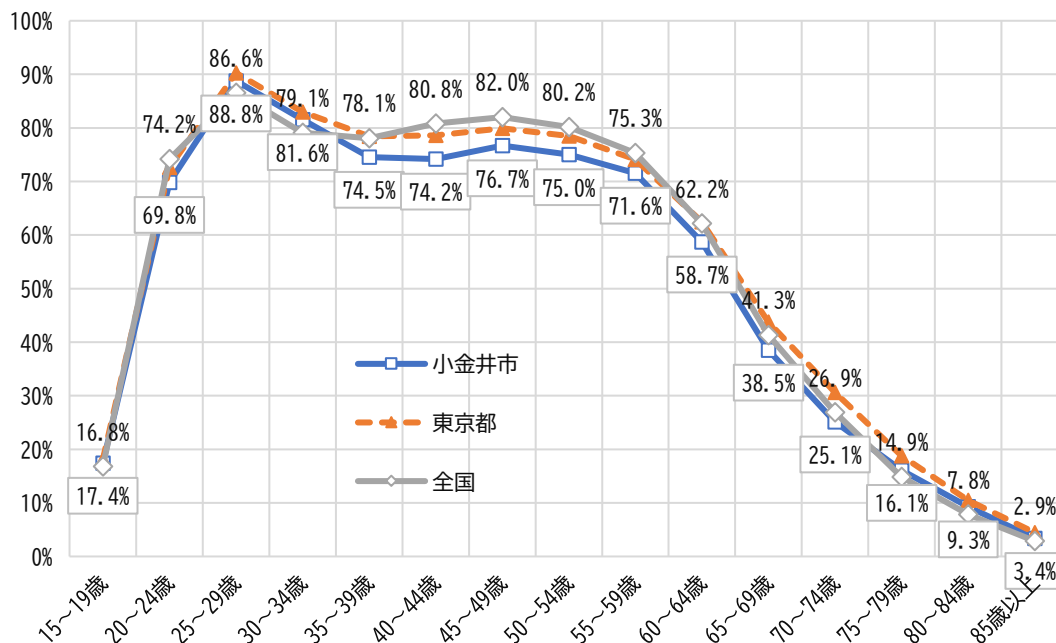
(8) 就労の状況

小金井市の年齢別労働力率をみると、男性の現役世代の労働力率はおおむね95%以上となっています。また、女性の20歳代の労働力率が上昇し、30～34歳の年齢層で低下する、いわゆる「M字カーブ」は解消に向かっているものの、30歳代、40歳代でその傾向は低い傾向のままです。女性の労働力率に関し、25～29歳では全国平均並みであるものの35～49歳では全国平均より3～5ポイント低くなっています。

■ 小金井市の年齢別労働力率の推移（国勢調査）

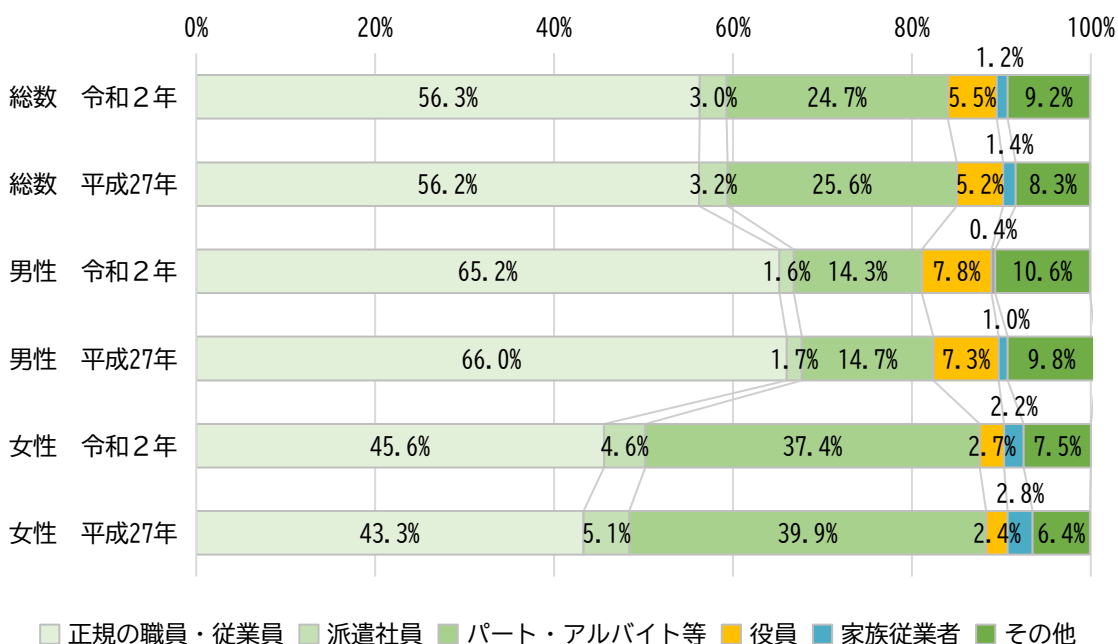


■ 令和2年の女性の年齢別労働力率の全国・東京都比較（国勢調査）

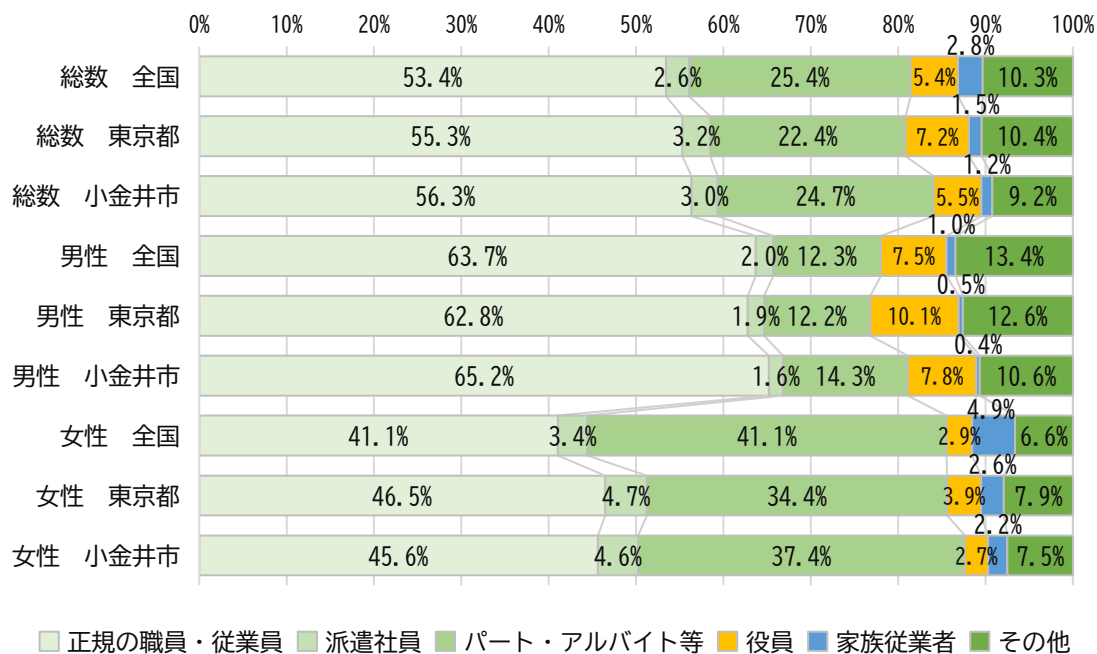


従業上の地位別従業者数割合でみると、男女ともに「正規社員・従業員」の割合が最も高くなっています。女性について平成27年に比べて令和2年は、「正規社員・従業員」の割合が増加、更に「パート・アルバイト等」と「派遣社員」を合わせた非正規雇用の割合は減少しています。全国と比較すると、男女ともに「正規社員・従業員」の割合が全国よりも高くなっています。

■従業上の地位別従業者数の割合（国勢調査）



■従業上の地位別従業者数の割合（国勢調査）



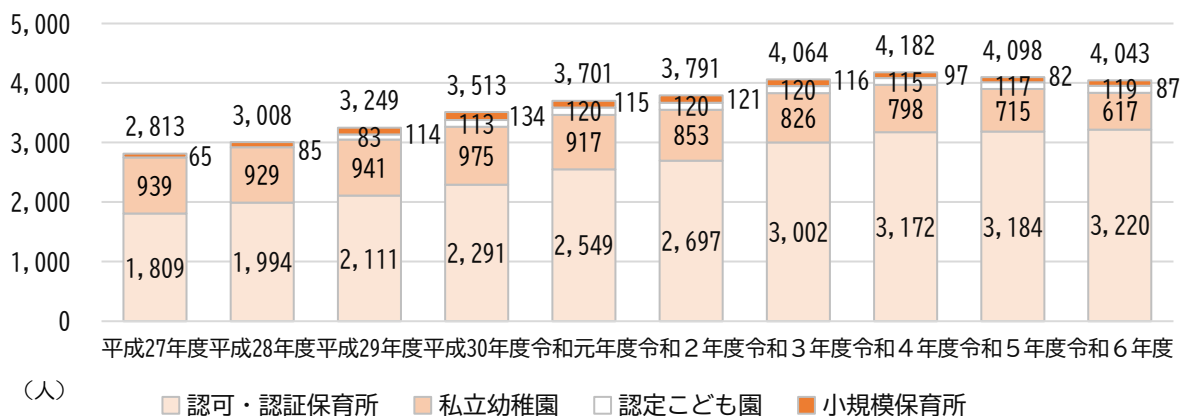
2 教育・保育施設の状況

(1) 利用児童数の推移

ここ10年間、小金井市内の認可・認定保育所の利用児童数は年々増加している一方、私立幼稚園の利用児童数は増減しています。小規模保育所は平成27年度に実施されて以降、平成30年度に利用児童数のピークを迎えたあと、増減を繰り返しながら減少傾向にあります。また、認定こども園は平成29年度に実施されて以降、令和3年度に利用児童数のピークを迎えたあと、ゆるやかな増減はありますが横ばい状態となっています。全体では、令和4年度のピーク時は4,182人の利用児童数がありましたが、それ以降徐々に減少しています。

■認可・認証保育所、私立幼稚園、認定こども園、小規模保育所の利用児童数の推移

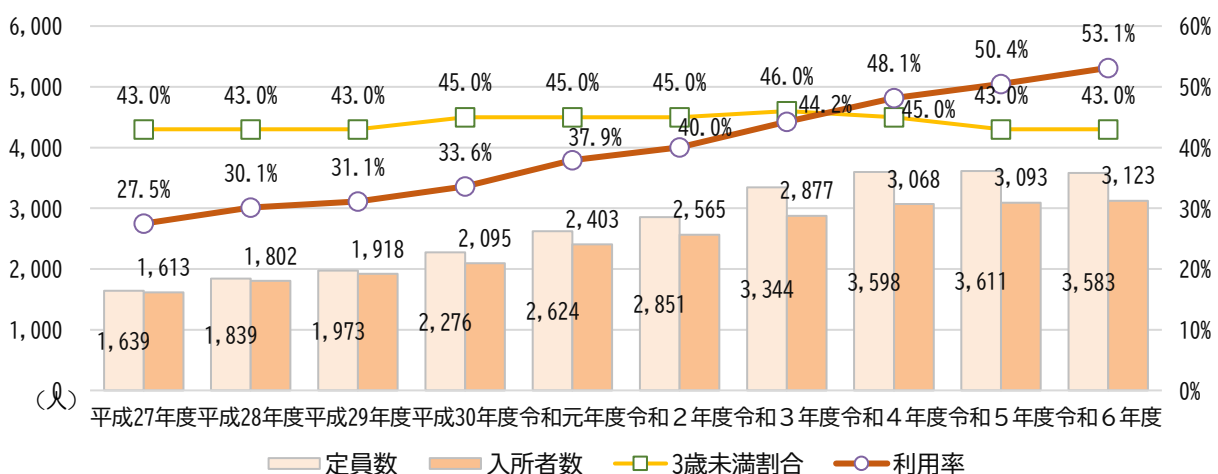
(保育課：4月1日現在)



(2) 認可保育所の利用状況

小金井市内の認可保育所の定員数は、令和5年度にピークを迎えた一方、入所者数は年々増加しています。母親の就業率の上昇に伴い、0～5歳の未就学児童に占める認可保育園の利用率も年々増加しており、令和6年度には53.1%となっています。

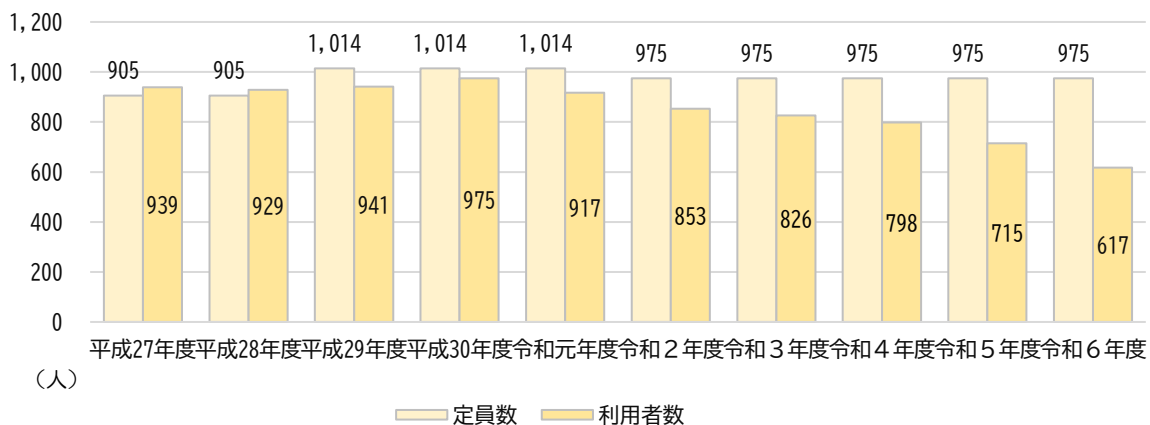
■保育所の定員数、入所者数、3歳未満児割合、利用率の推移 (保育課：4月1日現在)



(3) 私立幼稚園の利用状況

小金井市内の私立幼稚園の定員数は横ばいで推移していますが、利用者数は平成 30 年度以降減少を続けています。令和 6 年度においては、定員 975 人に対して、利用者数は 617 人となっています。

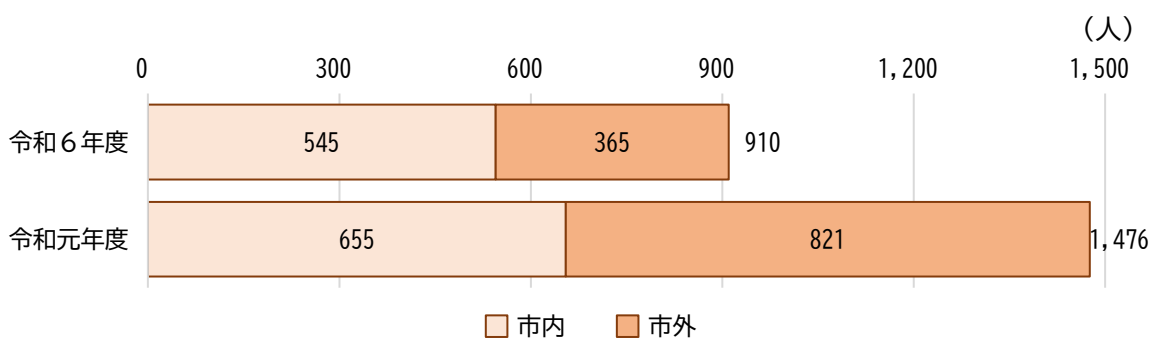
■私立幼稚園の定員数、利用者数の推移



(4) 私立幼稚園の通園状況

小金井市の私立幼稚園利用者は、令和元年度の 1,476 人であったの対し、令和 6 年度は 566 人減少し 910 人となっています。通園の所在地別で見ると、市外への通園人数は、令和元年度は 821 人であったのに対し、令和 6 年度は 456 人減少し 365 人となっています。一方、市内への通園人数は、令和元年度は 655 人であったのに対し、令和 6 年度では 110 人減少し 545 人となっています。以前は市外の通園者が多い状態でしたが、ここ 5 年間で大きく減少した結果、令和 6 年度では市内の通園者のほうが多い状態となっています。

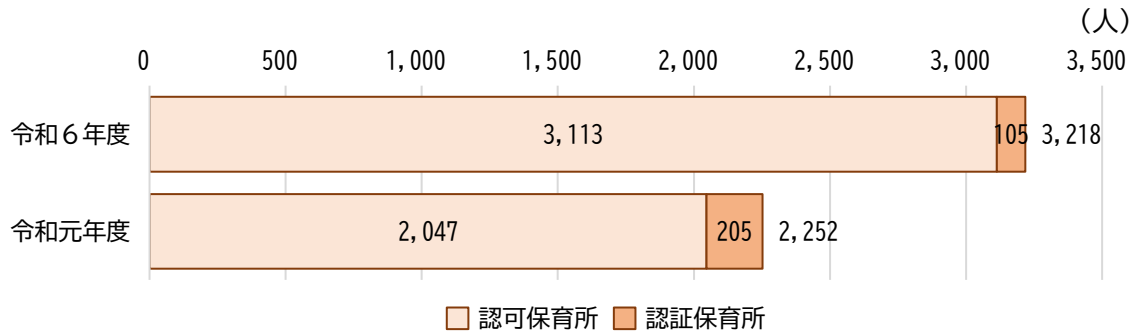
■私立幼稚園所在地別通園状況



(5) 認可・認証保育所の利用状況

小金井市内の認可保育所と認証保育所の利用状況は、令和元年度と比べ、認可保育所は1,066人増の3,113人、認証保育所は100人減の105人となっています。

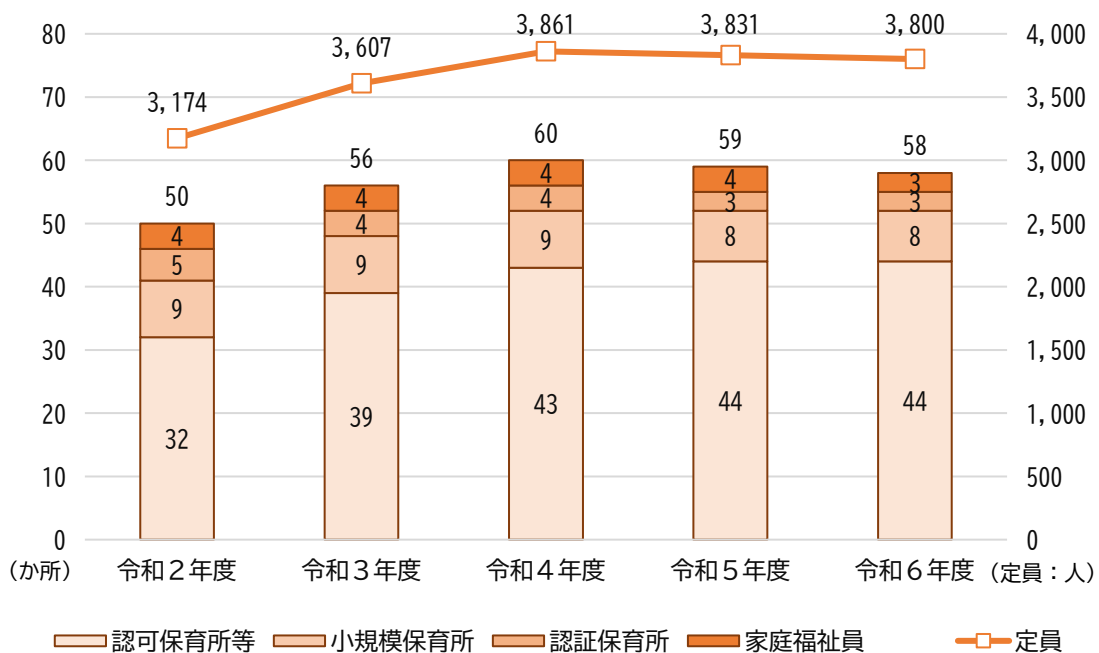
■認可・認証保育所の施設利用状況



(6) 保育施設数と定員の推移

小金井市内の保育施設数及び定員は、令和4年度にそれぞれピークを迎え、施設数は60か所、定員は3,861人となっており、以降は両者ともやや減少しています。

■市の保育施設数と定員の推移



3 地域子ども・子育て支援事業の状況

(1) 延長保育事業、休日保育事業

通常の開所時間（11 時間）を超えて、さらに延長して保育を行ったり（延長保育）、日曜日・祝日にも保育を行ったりする（休日保育）サービスです。

【実施状況】（令和5年度実績）

区分	延長保育	休日保育	夜間保育	幼稚園預かり保育
実施か所数	44	0	0	5
私立	39	0	0	5
公立	5	0	0	0

(2) 放課後児童健全育成事業（学童保育）

放課後における保育が必要な児童を対象に、放課後等における児童の安全・安心な居場所の確保と遊び・学習・各種体験活動の場を提供しています。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施か所数	19	22	25	26	26
登録児童数	1,073	1,193	1,287	1,425	1,525

【参考：放課後子ども教室実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
参加者数	33,018	18,861	49,820	108,601	122,670
実施回数	837	281	623	1,268	1,566

(3) 子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）

①ショートステイ

保護者の病気や出産、家族の介護、冠婚葬祭等への出席のため、家庭において児童の養育が困難になった場合に、市が指定する施設において、子どもを宿泊により一時的に預かるサービスです。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施か所数	1	1	1	1	1
延宿泊数	5	28	24	27	15

②トワイライトステイ

保護者が仕事その他の理由により夜間不在となり、家庭において児童の養育が困難な場合に、市が指定する施設において、子どもを夜間一時的に預かるサービスです。

【実施状況】

令和6年9月より事業開始

（令和元年度～5年度実績） 未実施

(4) 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）

生後4か月までの乳幼児がいる家庭を助産師または保健師が訪問し、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供を行うとともに、親子の心身の状況や養育環境を把握し、助言等を行います。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
訪問件数	1,119	918	1,045	980	871
出生数	1,017	929	980	937	910

(5) 養育支援訪問事業及び要保護児童対策地域協議会その他の者による要保護児童等に対する支援に資する事業

児童の養育について支援が必要でありながら、積極的に支援を求められない状況にある家庭に対し、過重な負担がかかる前に、訪問による専門的な指導や育児・家事支援等を行います。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
訪問家庭数	9	11	13	9	9
実施率	必要な家庭には全戸派遣				

(6) 地域子育て支援拠点事業

子どもたちの健やかな成長と、保護者が楽しく子育てできるように、気軽に集う場を提供し、子育て相談、子育て情報提供、親子イベントなどを行っています。

【実施状況】子ども家庭支援センター、本町児童館、東児童館、貴井南児童館、緑児童館で実施（ひろば事業）

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
設置か所数	5	5	5	5	5

(7) 一時預かり事業

保護者の就労や求職活動、病気やけが、出産、介護、冠婚葬祭、リフレッシュ等により一時的に家庭での保育が困難な場合に、週3日を限度に保育所に預けることができるサービスです。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施か所数	10	10	10	10	10
延利用件数	14,587	8,107	8,322	8,339	8,482

(8) 病児保育事業（病後児保育）

病気やけがの回復期にある乳幼児（病後児）を専用の保育室で看護師・保育士が預かるサービスです。

【実施状況】各施設定員4名（1日あたり）

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施か所数	2	3	3	3	3
登録児童数	949	1,282	1,657	1,900	2,163

(9) 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）

子育ての手助けがほしい人（依頼会員）、子育てのお手伝いをしたい人（協力会員）、両方を兼ねる人（両方会員）に会員登録いただき、子育てのサポートを提供する相互援助活動を行います。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
依頼会員数	1,699	1,709	1,685	1,746	1,832
協力会員数	270	277	285	298	307
両方会員数	28	25	25	25	23
活動件数	3,418	2,601	3,076	3,084	5,329

(10) 妊婦に対して健康診査を実施する事業（妊婦健康診査）

妊娠中の母親の健康状態や胎児の発育状況などを定期的に確認するため、妊婦に対して健康診査を実施します。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
受診件数（合計）	10,579	10,169	10,610	10,543	10,264
受診件数（1回目）	973	959	925	964	858
受診件数（2回以降）	9,606	9,210	9,685	9,579	9,406
妊娠届出数	1,032	980	984	994	885
受診件数／妊娠届出数	10.25	10.38	10.78	10.61	11.60
妊娠届出数／0歳人口	0.99	0.97	1.05	1.03	0.99

(11) 利用者支援事業

子ども及びその保護者等、または、妊娠している方がその選択に基づき、教育・保育・保健その他の子育て支援を円滑に利用できるよう、必要な支援を行います。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基本型 実施か所数	—	—	—	—	—
特定型 実施か所数	1	1	1	1	1
母子保健型 実施か所数	1	1	1	1	1

基本型については令和6年9月より事業開始（実施か所数1）

【参考：妊婦面談】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施人数	726	802	618	894	918

(12) 実費徴収に係る補足給付を行う事業

各施設事業者において実費徴収を行うことができることとされている①食事の提供に要する費用及び②日用品、文房具等の購入に要する費用等について、低所得世帯を対象に費用の一部を補助します。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施状況	実施	実施	実施	実施	実施

(13) 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業

特定教育・保育施設等への民間事業者の参入の促進に関する調査研究その他多様な事業者の能力を活用した特定教育・保育施設等の設置又は運営を促進するための事業です。

【実施状況】

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施状況	—	—	—	検討	実施

4 ニーズ調査の結果概要

教育・保育・子育て支援に関する利用状況や今後の利用希望等を把握し、お子さんが健やかに成長できるまちとなるよう、更なる子どもと子育て家庭の支援の充実を推進する「のびゆくこどもプラン 小金井」（令和7年度から令和11年度まで）を策定するための基礎資料とすることを目的に調査を行いました。

○抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出

○調査期間：令和5年12月26日～令和6年1月25日

※WEBは令和6年1月31日到着分、郵送は令和6年2月5日到着分まで集計。

○配布方法：郵送

○回収方法：郵送または調査票に示したWEBページから回答するインターネット方式

※調査対象者の方全員にお礼状と未記入の場合の送付をお願いするハガキを令和6年1月15日に発送しました。

区分	標本数	有効回答数	有効回答率
ア) 就学前児童の保護者調査	2,000人	全体：1,059通 郵送：630通 WEB：429通	全体：53.0% 郵送：31.5% WEB：21.5%
イ) 小学生児童の保護者調査 (小学生児童の本人調査を含む。)	1,500人	全体：654通 郵送：435通 WEB：219通	全体：43.6% 郵送：29.0% WEB：14.6%
ウ) 中学生・高校生年代の保護者調査	1,250人	全体：586通 郵送：378通 WEB：208通	全体：46.9% 郵送：30.2% WEB：16.6%
エ) 中学生・高校生年代の本人調査	1,250人	全体：411通 郵送：283通 WEB：128通	全体：32.9% 郵送：22.6% WEB：10.2%
オ) ひとり親家庭の保護者調査	500人	全体：204通 郵送：146通 WEB：58通	全体：40.8% 郵送：29.2% WEB：11.6%
合計	6,500人	全体：2,914通 郵送：1,872通 WEB：1,042通	全体：44.8% 郵送：28.8% WEB：16.0%

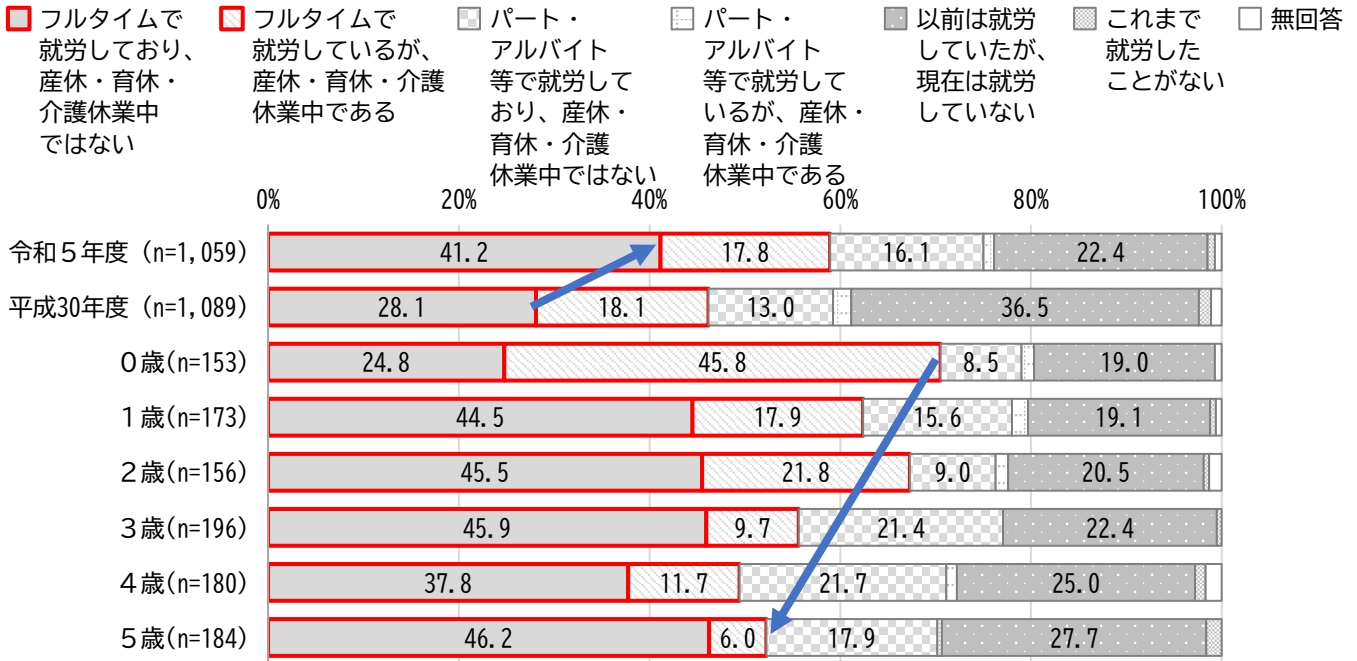
※帯グラフについては、数字が重なると読解できなくなることから、一部表記を省略しています。

※前回比較などで項目がないものは、数値を表示していません。

ア) 就学前児童の保護者調査

①保護者の就労状況

母親の就労状況について、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」と「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」を合計した割合を見ると、平成30年度よりも令和5年度が高く、子どもの年齢が上がるにつれ割合が減少する傾向にあります。年代が移り変わるにつれ、フルタイム就労が増加していることがわかります。



②現在利用している幼稚園・保育所を選んだ理由

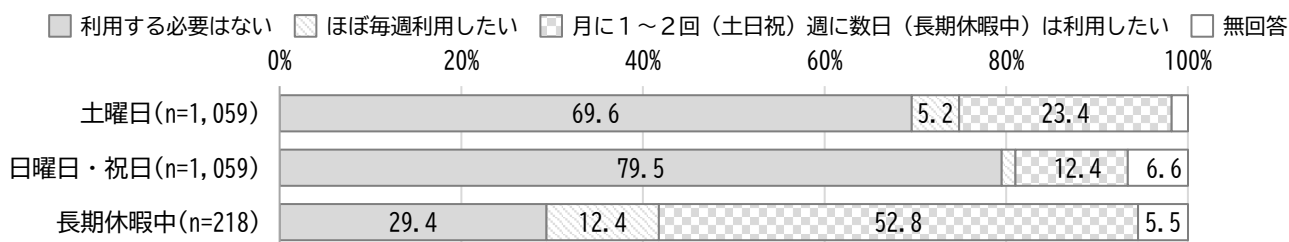
「通いやすさ」においては、「0歳」が最も高く、子どもの年齢とともに割合が下がっています。一方、それ以外の項目については、「0歳」以降に割合が増えるケースが多いことから、保育園・幼稚園へのニーズは、子どもの年齢とともに多様化する傾向があることがわかります。

(単位: %)

区分	回答者数 (人)	通いやすさ	先生の質	教育・保育理念	園全体、園児の雰囲気	園全体の長さ	延長保育、預かり	夏休み・冬休みなどの長期休暇中の事業	紹介、友人・知人の評判	給食やおやつの内容	充実したイベント	定員	幼稚園・保育所の費用 (自己負担額)	その他	無回答
0歳	59	86.4	25.4	20.3	42.4	10.2	1.7	8.5	11.9	13.6	11.9	1.7	11.9	0.0	
1歳	129	85.3	31.0	31.8	52.7	13.2	2.3	11.6	11.6	11.6	8.5	6.2	17.8	0.8	
2歳	121	76.9	26.4	27.3	50.4	14.9	2.5	9.1	13.2	5.8	9.1	0.0	14.9	0.0	
3歳	196	74.5	33.7	33.7	55.1	15.8	4.6	12.8	16.3	11.2	3.6	2.0	19.4	1.0	
4歳	180	71.1	31.7	34.4	60.0	21.1	4.4	13.3	18.9	12.8	5.6	5.0	17.2	1.1	
5歳	182	68.1	29.1	32.4	51.6	15.4	5.5	9.9	18.1	12.6	7.7	3.3	21.4	0.5	

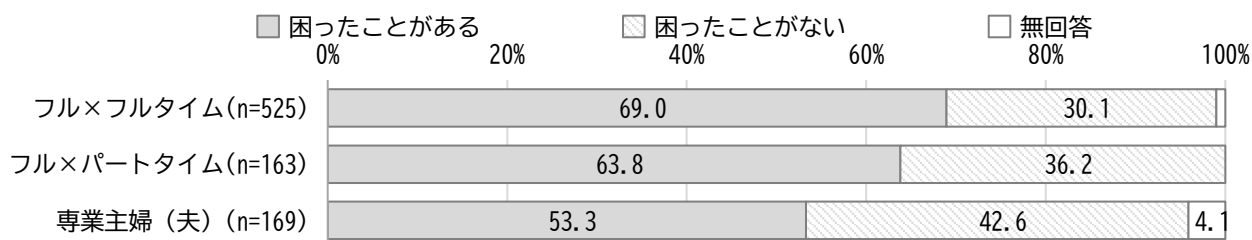
③休みの時の定期的な教育・保育の事業の利用希望

幼稚園を利用されている方の「長期休暇中」の利用意向が高くなっています。また、教育・保育事業では「土曜日」と「日曜日・祝日」との比較では、「土曜日」のほうが利用意向は高くなっています。



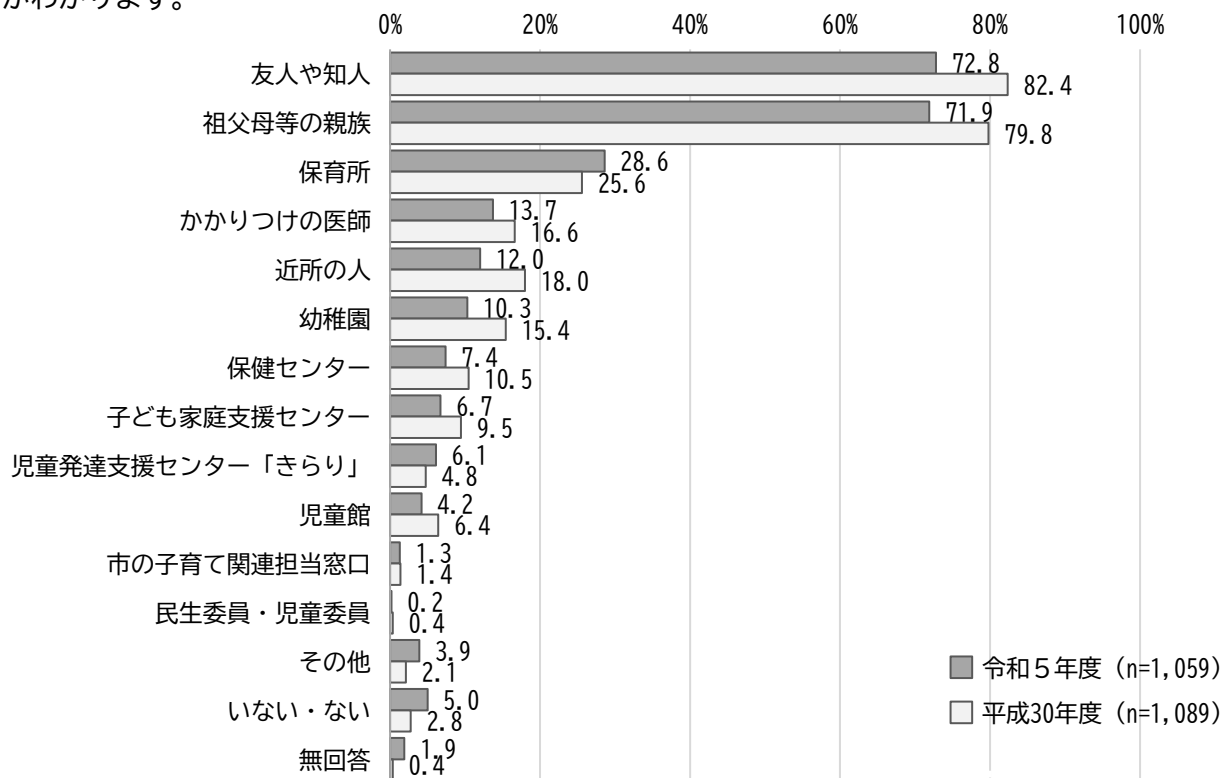
④お子さんが急病の際にすぐに診てくれる医療機関が見つからず困ったこと

両親の就労形態別に見ると、「困ったことがある」の割合は、「フル×フルタイム」が最も多くなっています。



⑤子育ての不安や悩みを相談できる人や場所

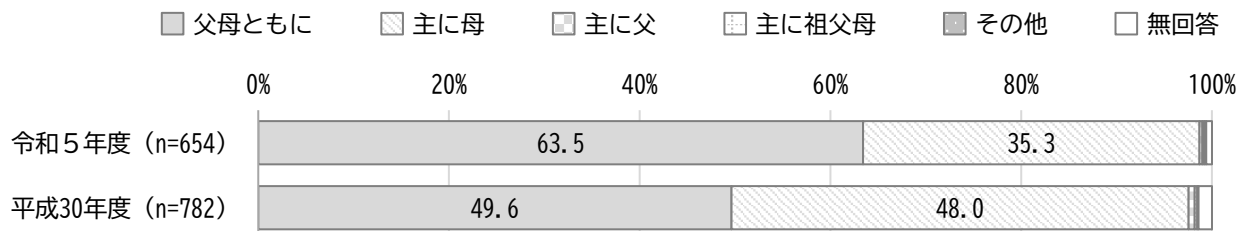
令和5年度は平成30年度と比べほとんどの項目で割合が減少しています。特に「友人や知人」「祖父母等の親族」「近所の人」などの割合も減少していることから、人と人とのつながりが希薄化していることがわかります。



イ) 小学生児童の保護者調査

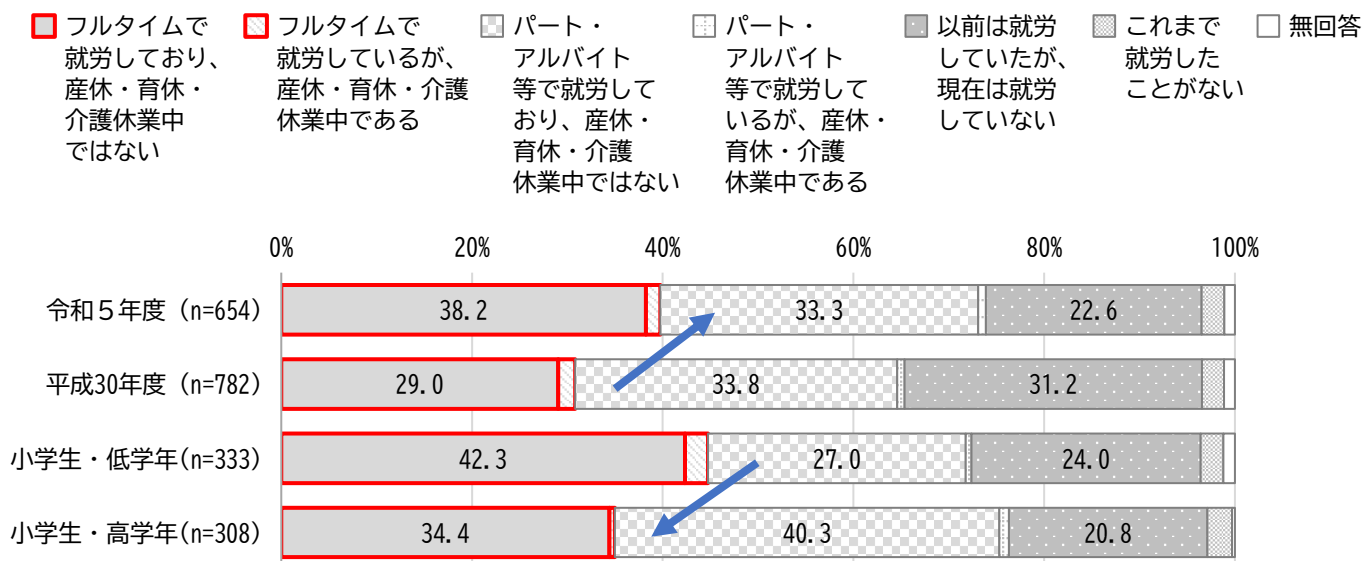
①子育て（教育を含む）を主に行っている方

子育て（教育を含む）を主に行っている方について、「父母ともに」の割合が 63.5%と最も高く、次いで「主に母」の割合が 35.3%となっています。育児の役割の均等化が進んでいることがわかります。



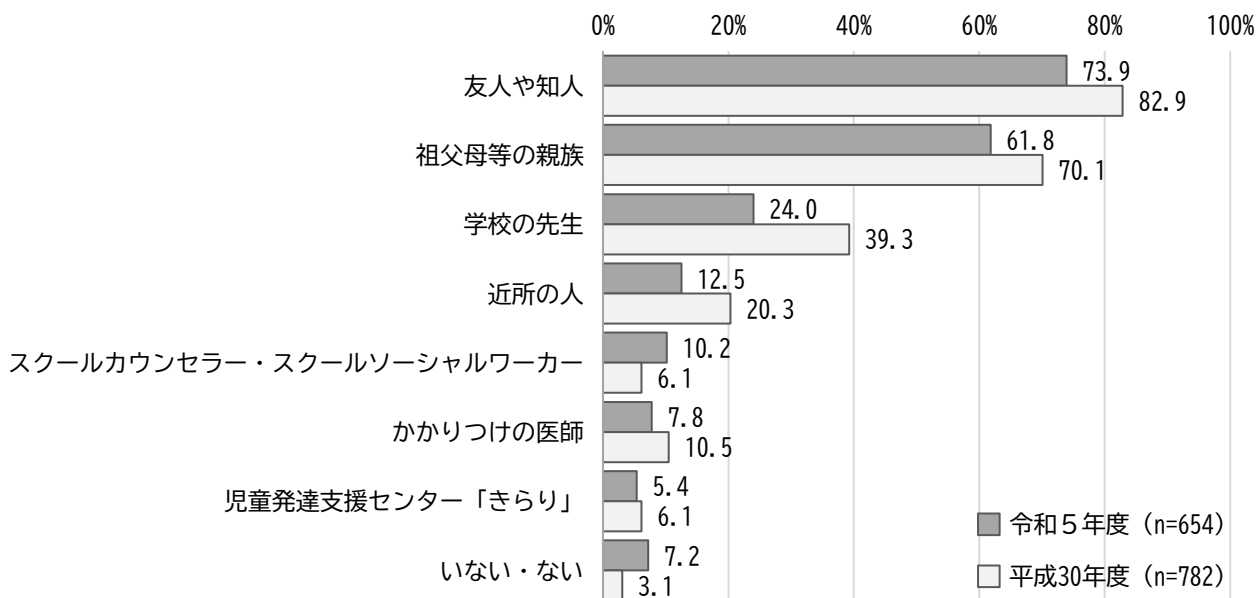
②保護者の就労状況

母親の就労状況について、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」と「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」を合計した割合を見ると、未就学の保護者の結果と同様、平成 30 年度よりも令和5年度が高く、子どもが小学生高学年よりも低学年の方が割合は高くなっています。就学前児童の保護者だけでなく、小学生児童の保護者でもフルタイム就労が増加していることがわかります。



③子育ての相談のできる人や場所

令和5年度は平成30年度と比べほとんどの項目で割合が減少しています。特に「友人や知人」「祖父母等の親族」「近所の人」などの割合も減少していることから、人と人とのつながりが希薄化していることがわかります。

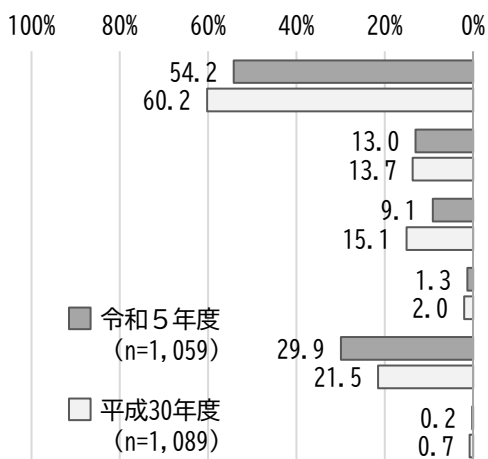


※選択率の低い項目は掲載していません。

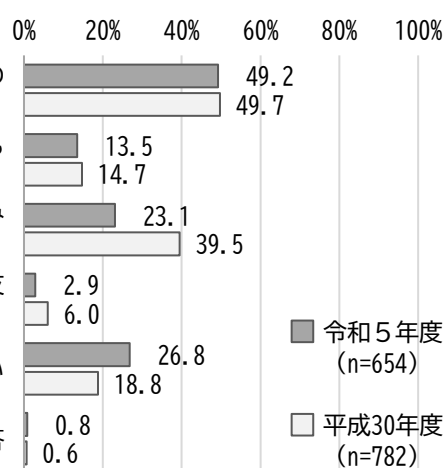
④日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人

就学前児童及び小学生児童の保護者の双方において、平成30年度と比較して、「緊急時か用事の際にみてもらえる祖父母等の親族や友人・知人」、また、「日常的にみてもらえる祖父母等の親族や友人・知人」は、いずれも減少の一方、「いずれもない」が増加しています。人と人とのつながりが希薄化しており、いわゆる「孤育て」世帯が増加しています。

○就学前児童の保護者



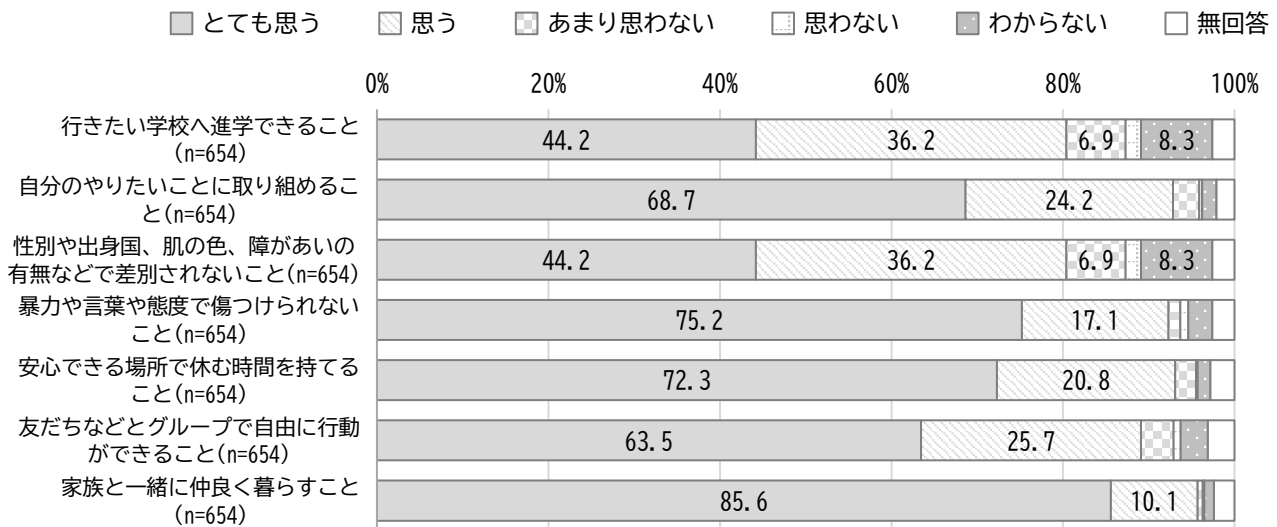
○小学生児童の保護者



イ) 小学生児童

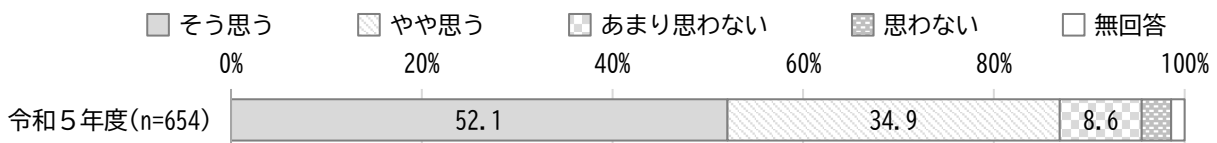
①大切だと思うこと

「とても思う」の割合が最も高いのは、「家族と一緒に仲良く暮らすこと」、次いで「暴力や言葉や態度で傷つけられないこと」となっています。



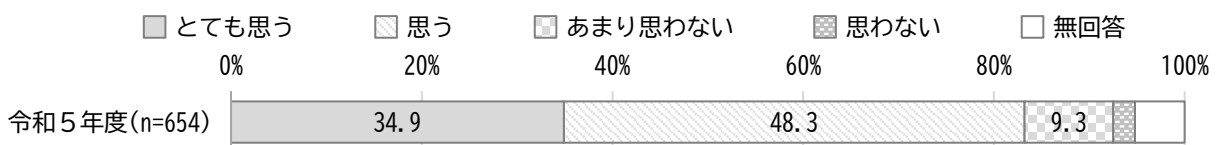
②自分のことが好きか

自分のことが好きかについて、「そう思う」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「やや思う」の割合が 34.9%となっています。



③自分の意見を聞いてもらえていると思うか

自分の意見を聞いてもらえていると思うかについて、「思う」の割合が 48.3%と最も高く、次いで「とても思う」の割合が 34.9%となっています。



④将来の夢はあるか

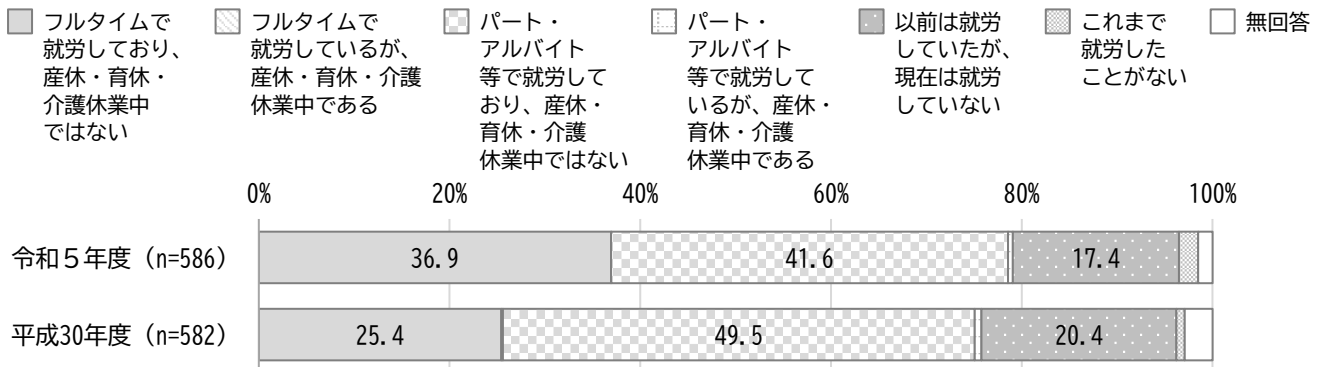
将来の夢はあるかについて、「ある」の割合が 71.7%となっています。



ウ) 中学生・高校生年代の保護者調査

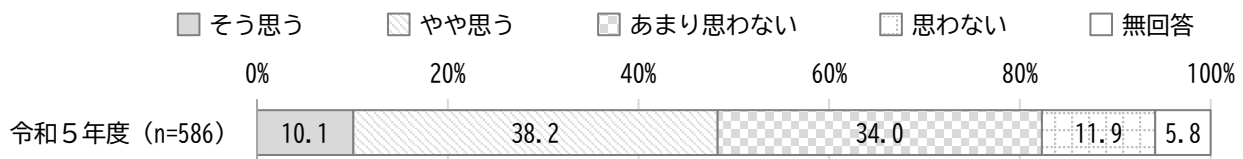
①保護者の現在の就労状況

母親の就労状況について、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」の割合が 41.6%と最も高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」の割合が 36.9%となっており、フルタイム就労は、平成 30 年度 (25.4%) より 11.5 ポイント高くなっています。



②子どもがのびのびと遊べる環境

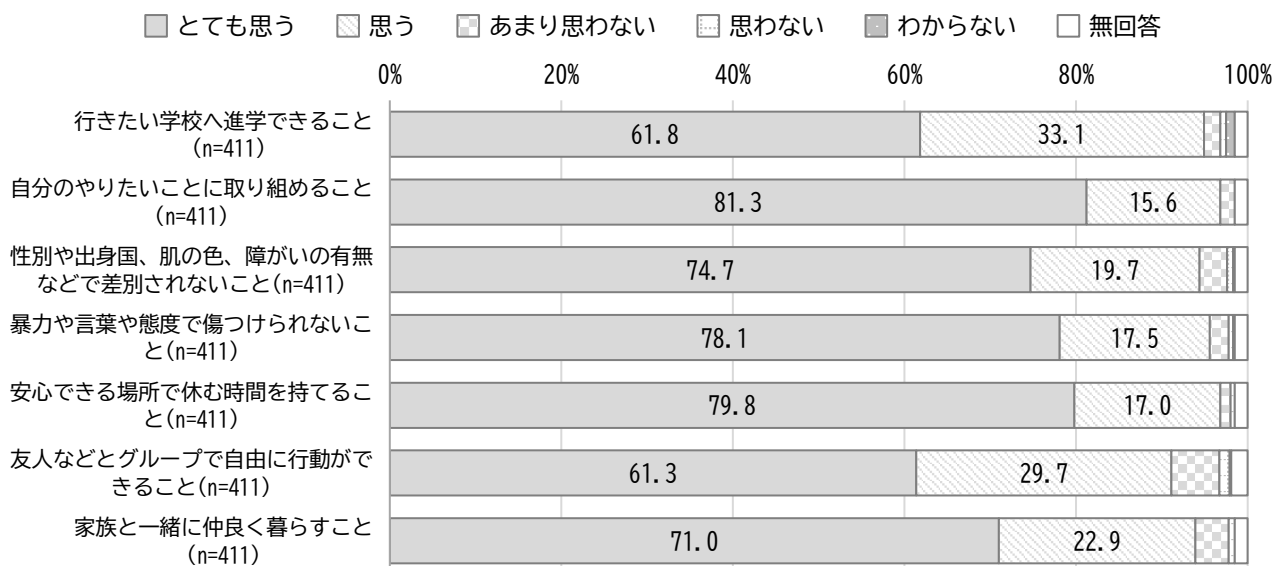
子どもがのびのびと遊べる環境が整備されているかについて、「やや思う」の割合が 38.2%と最も高く、次いで「あまり思わない」の割合が 34.0%となっています。



工) 中学生・高校生年代の本人調査

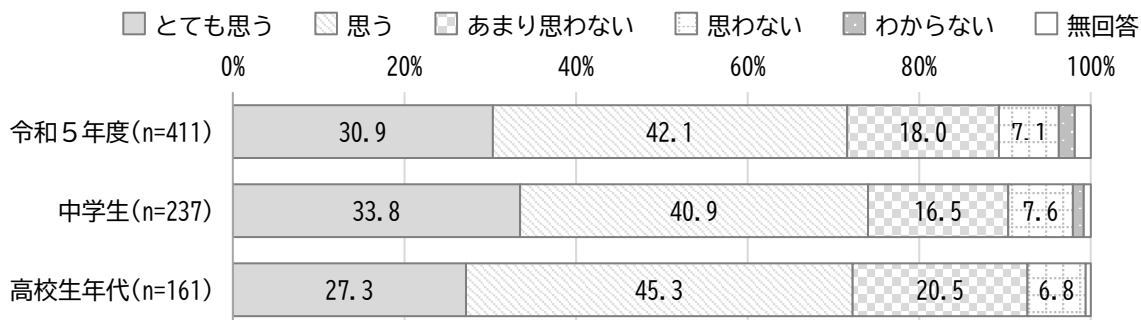
①あなたが大切だと思うこと

総じて「とても思う」の割合は高くなっていましたが、「自分のやりたいことに取り組めること」の割合が81.3%最も高く、次いで「安心できる場所で休む時間を持てること」の割合が79.8%となっています。



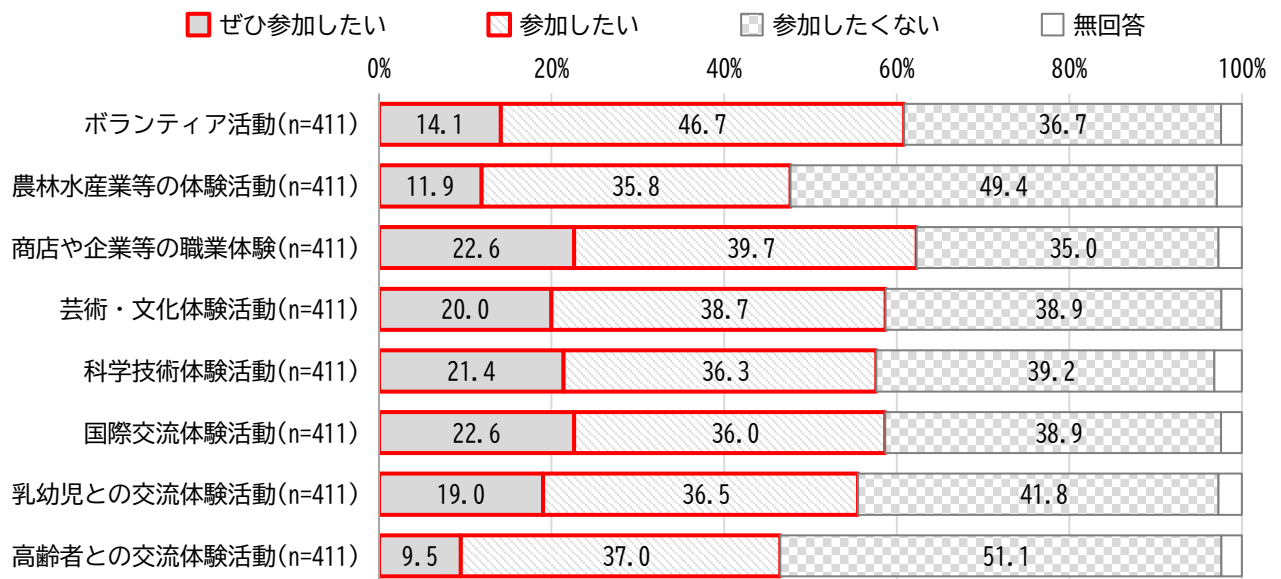
②自己肯定感

自分のことが好きかについて、「思う」の割合が42.1%と最も高く、次いで「とても思う」の割合が30.9%となっています。



③参加したいと思う体験の機会

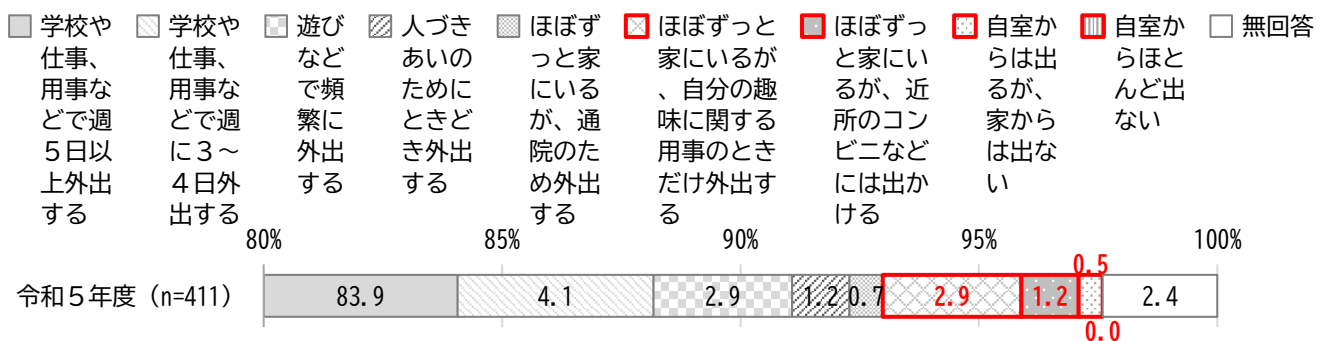
「ぜひ参加したい」と「参加したい」を合計した割合を見ると、「商店や企業等の職業体験」が最も高く、次いで「ボランティア活動」となっていますが、ほぼ全ての項目で5割を超えており、体験の種類においては様々なニーズがあることがわかります。



④外出（ひきこもり）の状況

最近6か月の外出状況について、「学校や仕事、用事などで週5日以上外出する」の割合が83.9%と最も高く、次いで「学校や仕事、用事などで週に3～4日外出する」の割合が4.1%となっています。

「狭義のひきこもり」の割合は1.7%、「準ひきこもり」の割合は2.9%、「広義のひきこもり」の割合は4.6%となっています。



※選択割合の低い項目の見やすさから始点を80%にしました。

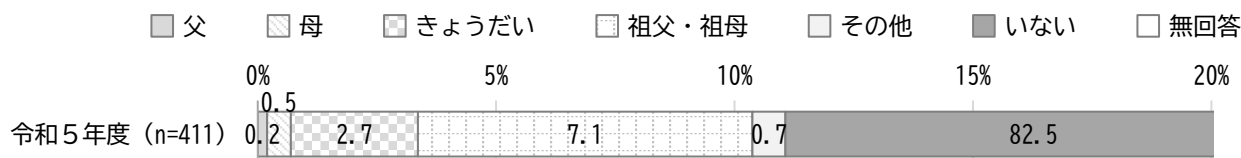
■ひきこもりの定義（内閣府）

6か月以上にわたり以下の状態にある。

広義のひきこもり	準ひきこもり	「ほぼずっと家にいるが趣味の用事の時だけ外出する」
	狭義のひきこもり	「ほぼずっと家にいるが近所のコンビニには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」の合計

⑤ヤングケアラーの状況

家族に育児・看病・介護やその他ケアなどお世話が必要な人が「いる」人の割合は11.8%となっています（「父」0.2%、「母」0.5%、「きょうだい」2.7%、「祖父・祖母」7.1%、「その他」0.7%の合計）。「いる」人のうち約1割の人が「自分の時間が取れないことがある」と回答しています。

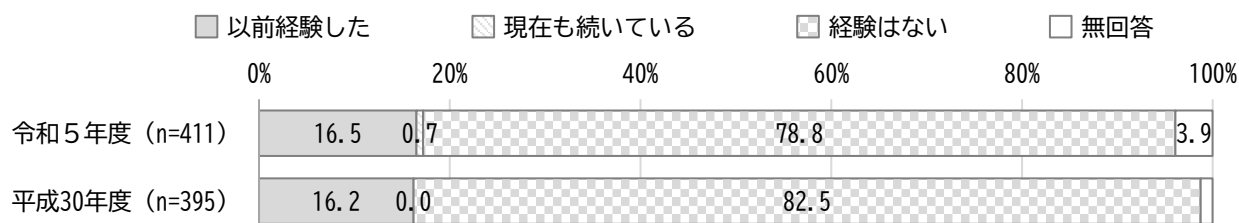


※選択割合の低い項目の見やすさから終点を20%にしました。

本調査からヤングケアラーの割合を特定することはできないところ、「ヤングケアラーと思われる子ども」実態調査（文部科学省委託、令和3年3月）によると、世話をしている家族が「いる」と回答したのは、中学2年生が5.7%、全日制高校2年生は4.1%となっています。

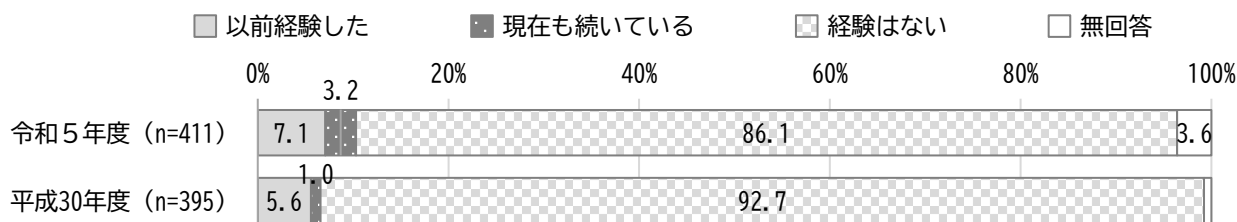
⑥いじめを受けた経験

いじめを受けたことについて、「以前経験した」16.5%と「現在も続いている」0.7%の合計は17.2%となっており、平成30年度の16.2%と比べて1.0ポイント増加しています。



⑦不登校の経験

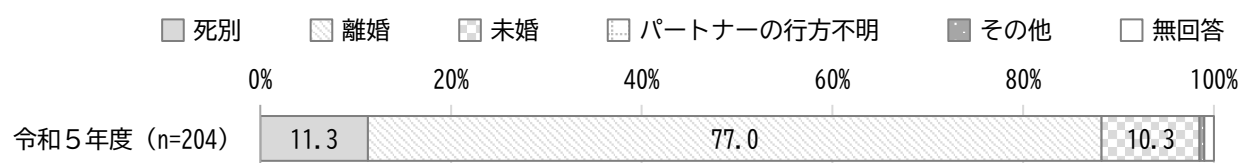
不登校について、「以前経験した」7.1%と「現在も続いている」3.2%の合計は10.3%となっており、平成30年度の6.6%と比べて3.7ポイント増加しています。



オ) ひとり親家庭の保護者調査

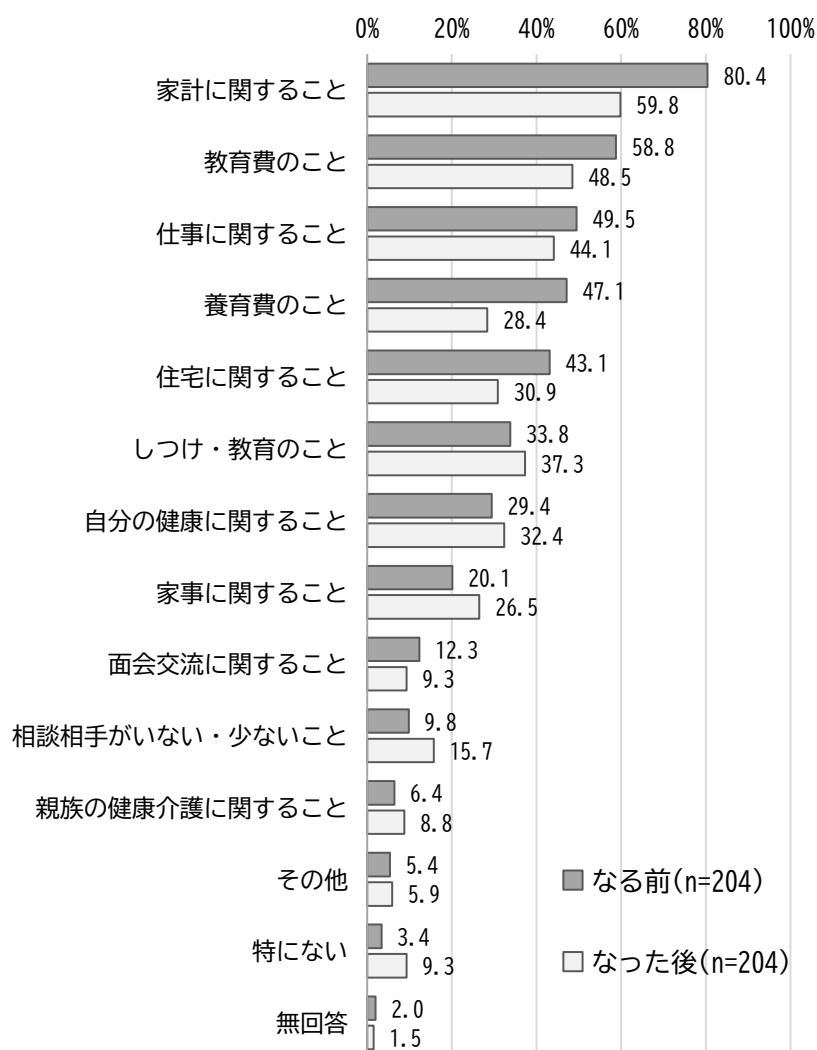
①ひとり親になった理由

ひとり親になった理由について、「離婚」の割合が77.0%と最も高く、次いで「死別」の割合が11.3%となっています。



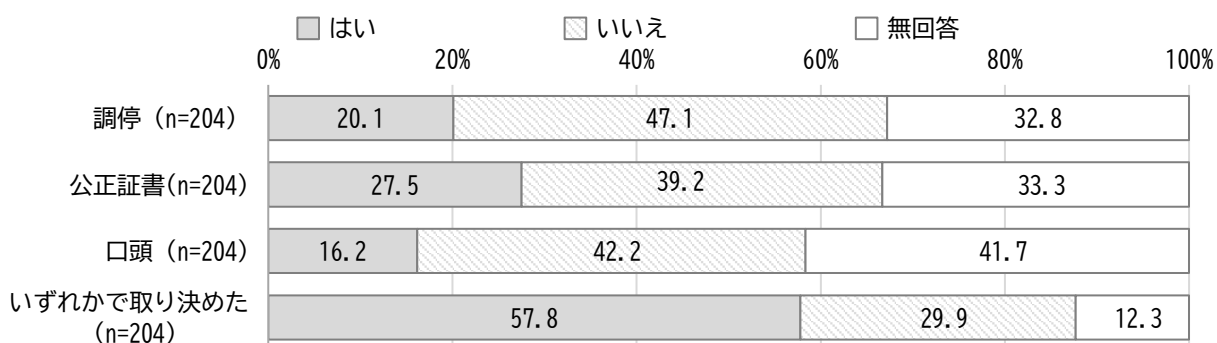
②ひとり親になる前と後の心配

ひとり親になる前と後の心配について、「家計に関すること」「教育費のこと」「養育費のこと」などお金のまつわる心配事は「なる前」の方が高く、逆に「しつけ・教育のこと」「自分の健康に関すること」「家事に関すること」「相談相手がない・少ないこと」などのお金以外の心配事は「なった後」の方が高くなっています。ひとり親に対するお金に関連する支援について、ひとり親になる前にはよく知られていないものがあることがわかります。



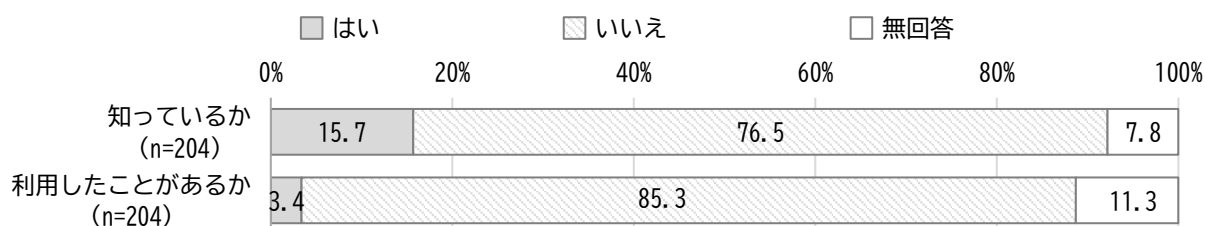
③離婚における養育費の取り決め方

「公正証書」の割合が27.5%と最も多く、次いで「調停」の割合が20.1%となっています。また、取り決め方のいずれかに「はい」と回答した割合は57.8%となっています。



④養育費確保支援事業

養育費の取決めを行うひとり親に対し、公正証書等の作成や保証会社との養育費保証契約に必要な経費に対して補助を行う養育費確保支援事業について、知っているかについて「はい」の割合は15.7%、利用したことがあるかについて「はい」の割合は3.4%となっています。事業について8割近くが周知されていないことがわかります。



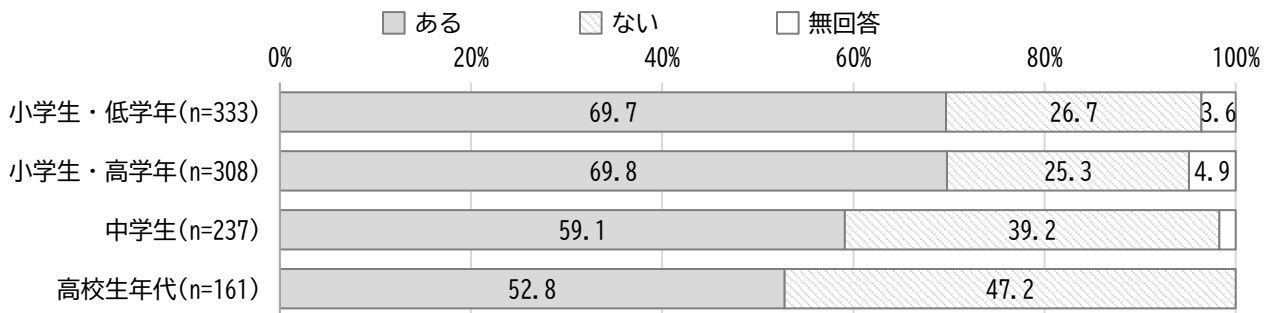
カ) 共通設問の対象者間比較

<居場所と体験>

①「ここに居たい」と感じる場所

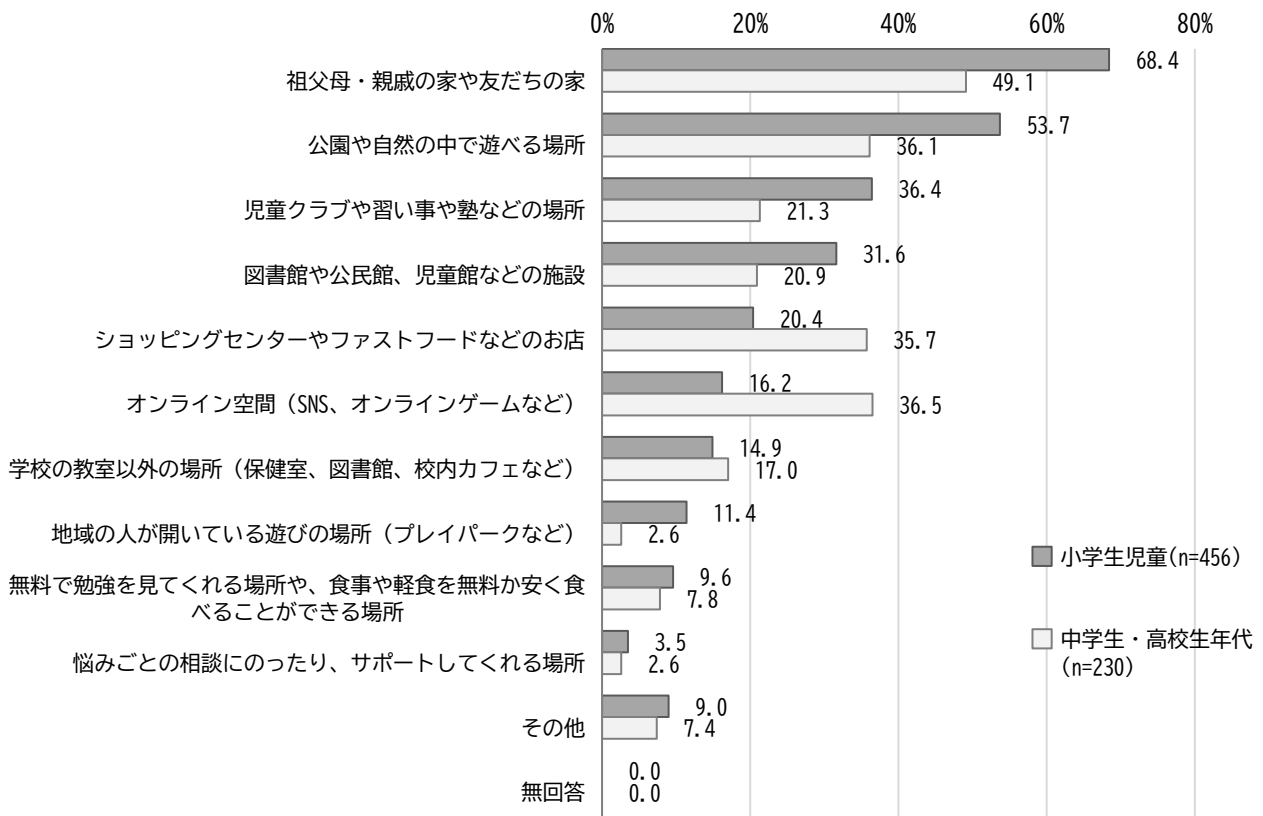
家や学校以外の「ここに居たい」と感じる場所は、小学生低学年・高学年ではあまり変化がない一方、中学生、高校生年代など年代が上がるにつれ「ある」が少なくなっています。

小学生では、学童保育所をはじめとした放課後の居場所の提供により「ある」の割合が高くなっていることが考えられる一方、中学生や高校生では、授業の時間が延び、時間を自由に使える放課後の時間が減少することにより、「ある」の割合が低くなっていることが考えられます。



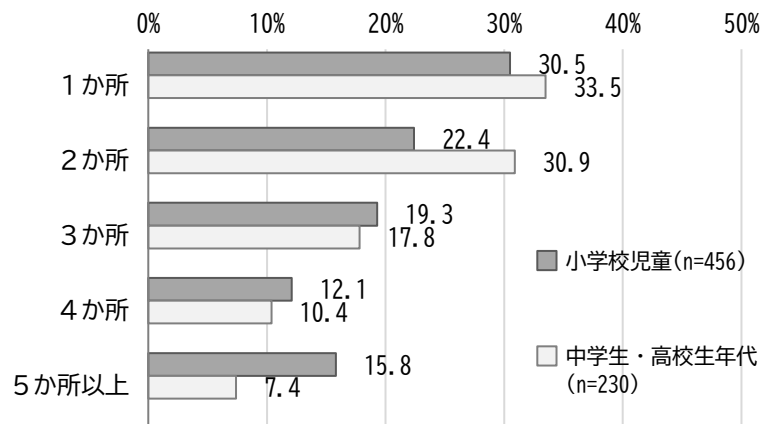
②「ここに居たい」と感じる場所

「ここに居たい」と感じる場所が「ある」と回答した方について、「小学生児童本人」「中学生・高校生年代の本人」ともに、「祖父母・親戚の家や友達の家」の割合が最も高く、次いで「公園や自然の中で遊べる場所」となっています。居場所に対する「安心感」や「自然体験」は広い世代でニーズがあることがわかります。



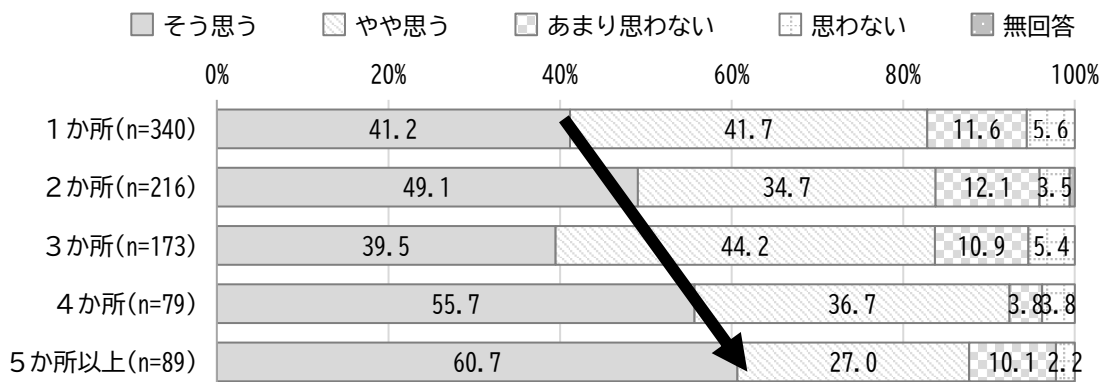
③居場所の数

上記設問で、1人の回答者が選択した数を「居場所の箇所数」として集計すると、右記のような結果となりました。「3か所」以上では「小学生児童本人」の割合の方が多一方、「2か所」以下では「中学生・高校生年代の本人」のほうが多くなっています。このことは、放課後の自由な時間が減少することが影響していることが考えられます。



④居場所の箇所数と自己肯定感の相関関係

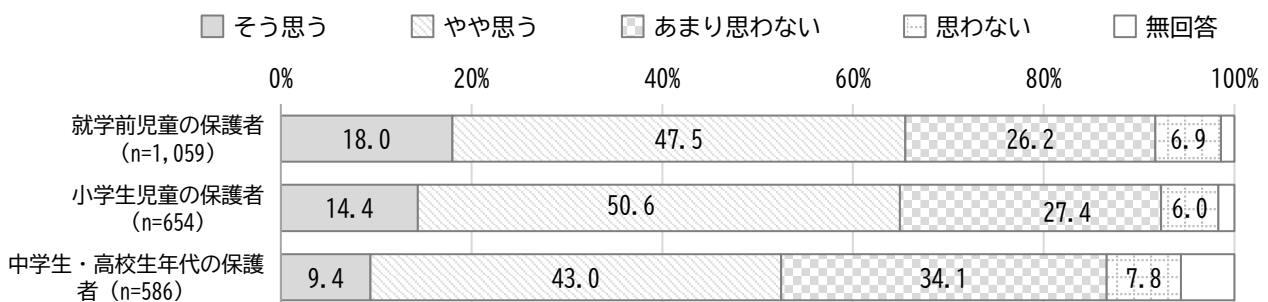
ここにいたいと思う居場所の箇所数が多い方が、自分のことが好きかについて「そう思う」の割合は高い傾向があります。子ども・若者が、自尊感情・自己肯定感をはぐくみ、役割や出番を獲得できるような多様な居場所づくりが求められています。



※nが小さいため、「小学生児童本人」「中学生・高校生年代の本人」のnを合算した上で再集計しています。
 ※中高生年代の選択肢は、「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」の4段階となっています。

⑤自然、社会、文化などのさまざまな体験

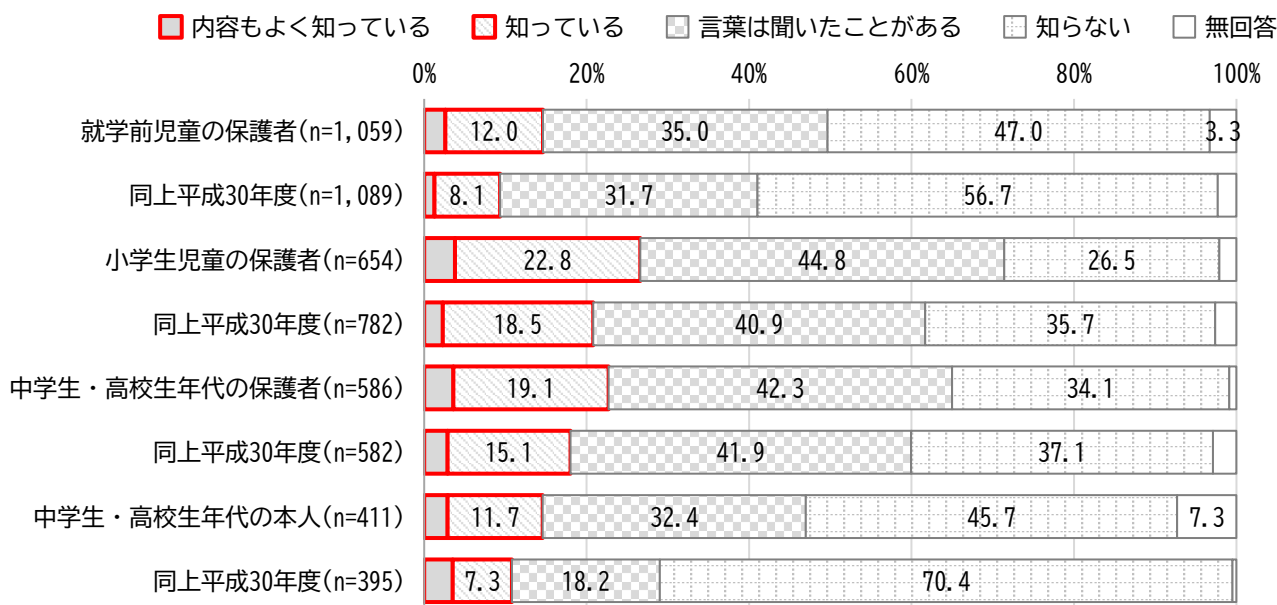
子どもが自然、社会、文化、芸術などの様々な体験をしやすいかについて、「そう思う」と「やや思う」の割合は、就学前児童の保護者 65.5%、小学生児童の保護者 65.0%、中高生年代の保護者 52.4%と子どもの年次が高くなるにつれて低くなっています。



<子どもの権利>

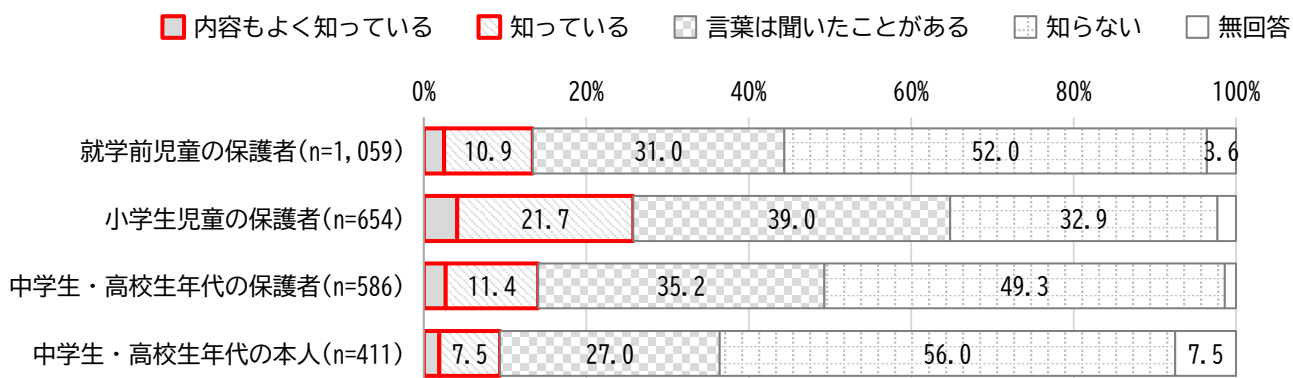
① 「小金井市子どもの権利に関する条例」の周知度

「内容もよく知っている」と「知っている」の合計について平成30年度と比較すると、いずれも年代も割合が高くなっており周知が進んでいますが、「言葉は聞いたことがある」と「知らない」の合計は、いずれも年代も約8割に上っています。



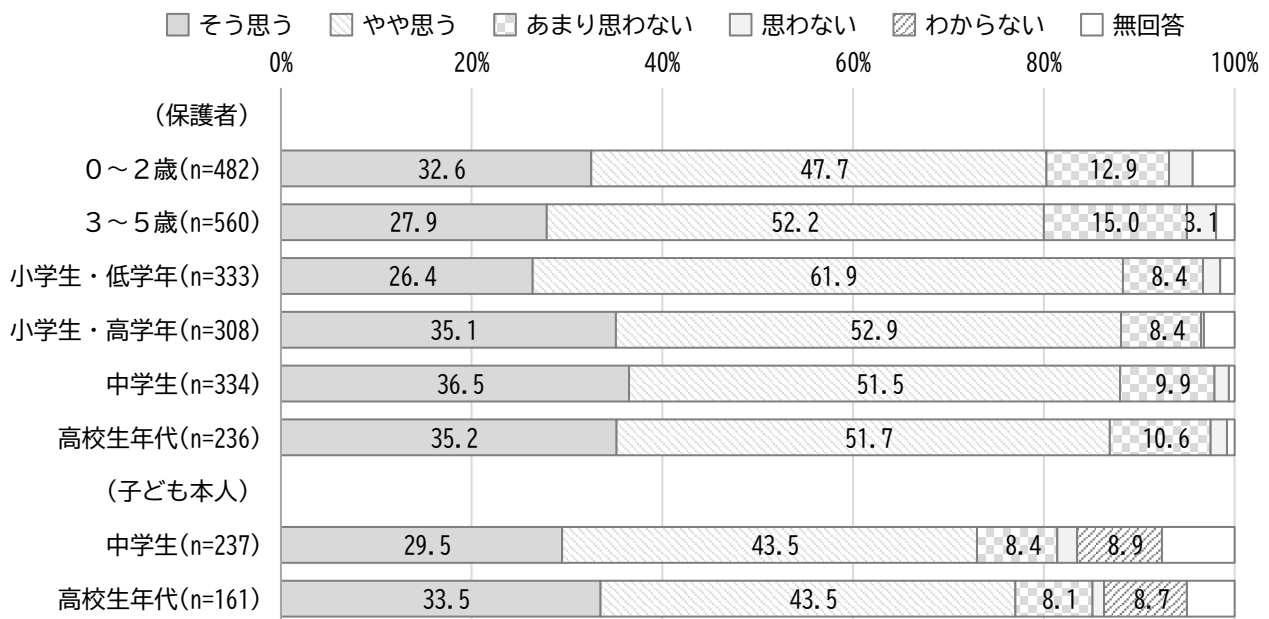
② 「子どもオンブズパーソン」の周知度

「内容もよく知っている」「知っている」を合計した割合は、「小学生児童の保護者」が最も高くなっており、小学校での周知が効果的にされていることが分かります。



③子どもの権利が守られていると思うか

「そう思う」の割合はおおむね3割前後ですが、小学生・高学年より上の年代の保護者でその割合が高くなっています。

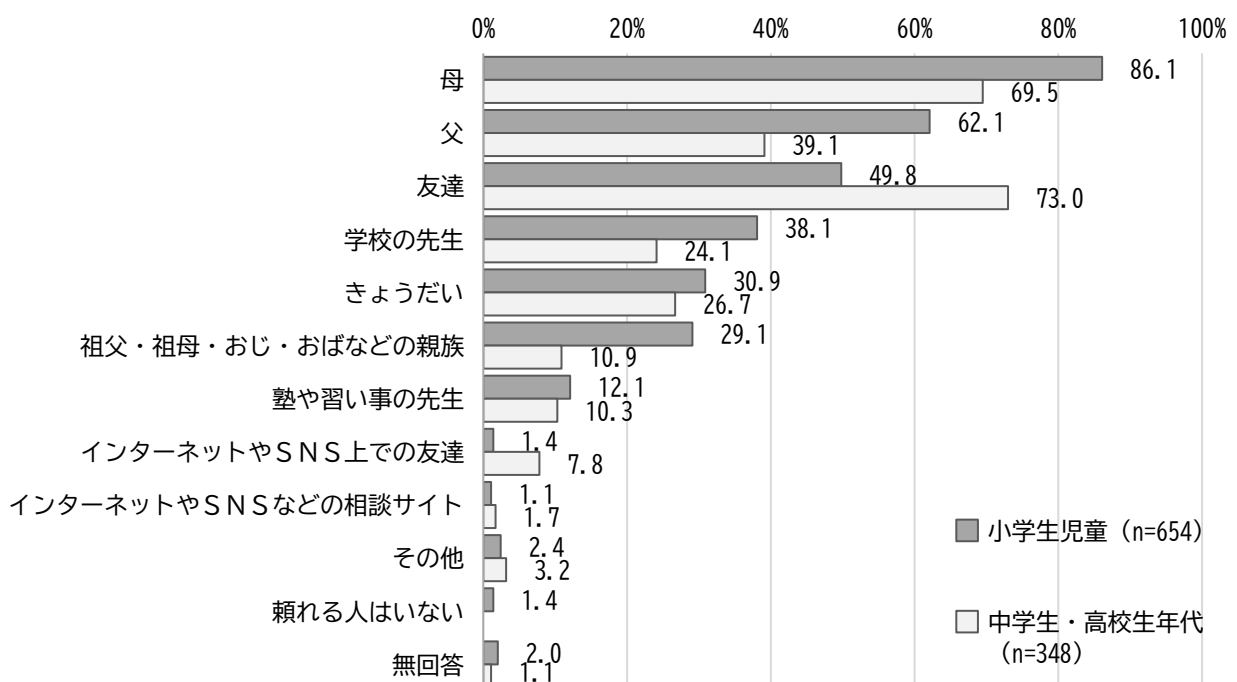


※「わからない」は子ども本人のみの設定項目です。

<困った時の相談相手>

①困ったときの相談相手（小学生児童と中学生・高校生年代の比較）

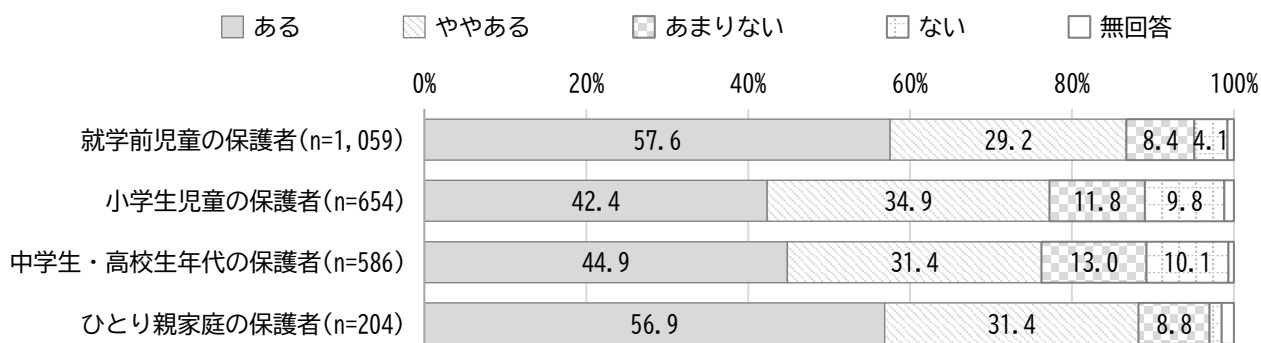
「小学生児童」では「母」の割合が86.1%と最も高い一方、「中学生・高校生年代」では「友達」の割合が73.0%と最も高くなっています。また、全体的に「小学生児童」の割合よりも「中学生・高校生年代」の割合は低い項目が多いことから、年齢が上がるとともに、家族から家族以外へと相談相手は変化していることがわかります。



<費用負担の不安、市や地域への要望>

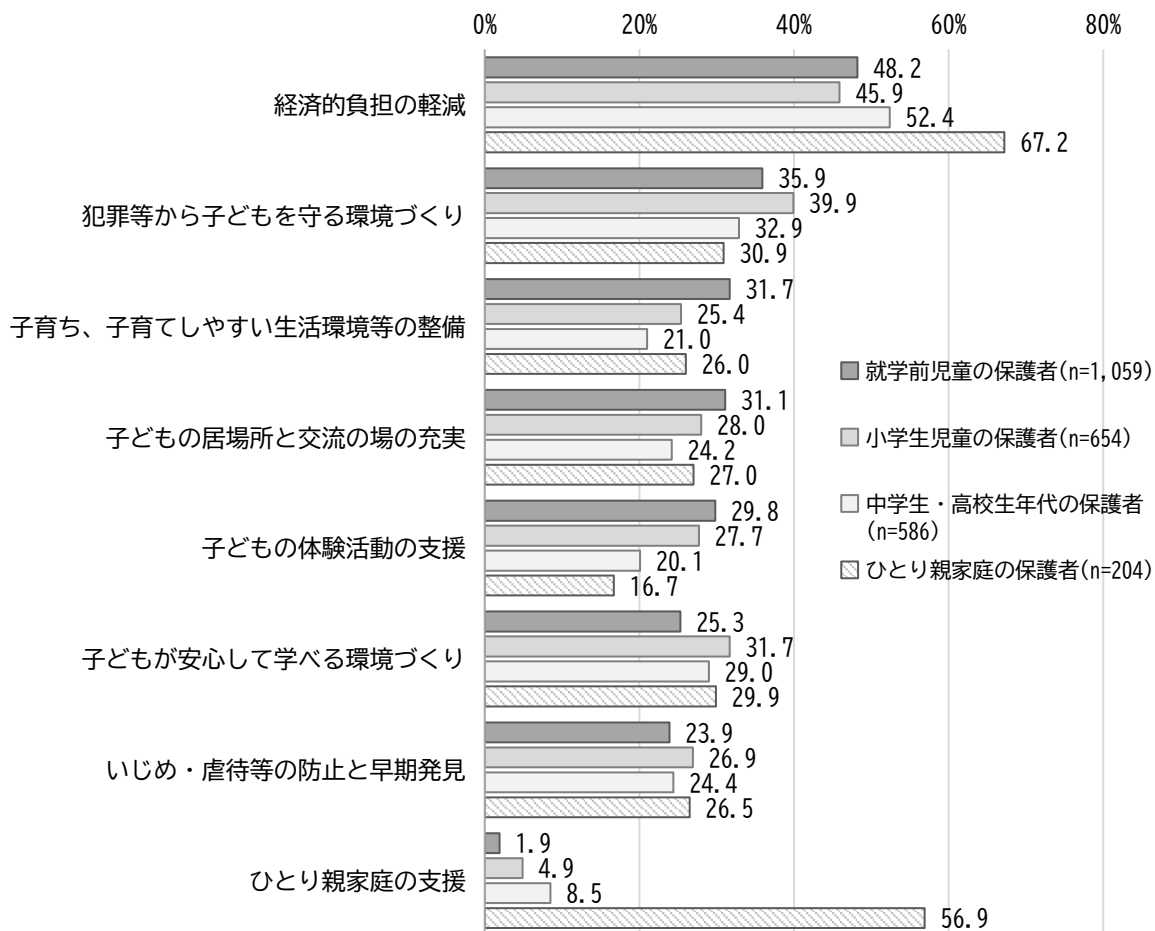
①子育て・教育の費用負担にかかる不安

子育て・教育の費用負担の不安が「ある」方の割合は、就学前児童の保護者で57.6%と最も高く、次いでひとり親家庭の保護者で56.9%となっています。



②子ども・子育て支援に関して小金井市や地域で充実してほしいこと

「就学前児童の保護者」では、「子育て、子育てしやすい生活環境」「子どもの居場所と交流の場の充実」などが他の保護者よりも高くなっています。「小学生児童の保護者」では、「犯罪等から子どもを守る環境づくり」「子どもが安心して学べる環境づくり」「いじめ・虐待等の母子と早期発見」が他の保護者よりも高くなっています。「ひとり親家庭の保護者」においては、「経済的負担の軽減」「ひとり親家庭への支援」などが他の保護者よりも高くなっています。



※項目が多いため、一部表示していません。

5 子ども・若者からの意見聴取の結果

(1) 実施目的

キッズカーニバルKOGANEI及び若者ワークショップにおいて、以下を目的として、子どもや若者から意見を聴取しました。

- ・子どもや若者が年齢や発達に応じて自分の意見を表明する機会及び社会的活動に参加する機会を確保するため（こども基本法第3条）
- ・のびゆくこどもプラン 小金井（計画期間：令和7年度から令和11年度まで）を策定するに当たり、子どもや若者から意見を聴き、反映させるため（こども基本法第11条）

(2) キッズカーニバルにおける意見

①実施要項

- イベント名 : キッズカーニバル KOGANEI
調査対象 : イベントに来訪している子ども（未就学児～小学校高学年を想定）
開催日時 : 令和6年6月8日（土）10：30～16：00、6月9日（日）10：00～16：00
開催場所 : 小金井 宮地楽器ホール
回答者数 : 268名（推定）
調査方法 : 「居場所」に関する4つの設問を記したポスターを用意しイベント会場のパネルに掲示。4つの選択肢の中から該当する枠に配布するシールを貼りつけてもらう。

②実施結果

問1. 「とても楽しいと感じる場所」はどこですか？

「図書館や公民館、児童館や児童クラブなど」が98件と最も多く、次いで「友だち・おじいちゃん・おばあちゃん・親せきの家」が88件、「公園や自然の中で遊べる場所」が41件と続いています。小金井市で小学生児童に対して実施したアンケート調査で、「ここに居たいと感じる場所」についての設問の結果では、「祖父母・親戚の家や友達の家」が最も多く、次いで「公園や自然の中で遊べる場所」、「3 図書館や公民館、児童館などの施設」となっています。

□「とても楽しいと感じる場所」ランキング

キッズカーニバル (未就学～小学生低学年)	順位	アンケート調査 (小学生低学年・高学年)
図書館や公民館、児童館や児童クラブなど	1位	祖父母・親戚の家や友達の家
友だち・おじいちゃん・おばあちゃん・親せきの家	2位	公園や自然の中で遊べる場所
公園や自然の中で遊べる場所	3位	図書館や公民館、児童館などの施設

※選択肢を対象に合わせて修正しており、また、項目の数などが異なることから、割合で比較できず、誤った読み方を防止する目的でランキング表記としています。

問2. 楽しいのはなぜですか？

「友だちや仲間、やさしい大人がいるから」が108件と最も多く、次いで「好きな遊びや運動、本が読めるから」が93件、「安心できる・落ち着けるから」が28件と続いています。

問3. だれといっしょに行きたいですか？

「お父さん・お母さん・きょうだい・一緒に暮らしている家族」が125件、と「一緒に暮らしていない家族、友だち」が120件となっており、全体の回答数のうち95%以上を占めています。

問4. その場所で何ができるとうれいですか？

「いろいろな人と出会えること」が93件と最も多く、次いで「ほかの意見」が79件、「じぶんの話や意見を聞いてもらえること」が56件となっています。「ほかの意見」は、「ブランコ」や「滑り台」といった、個々の具体的な遊びの回答が多くありました。

③実施結果からわかること

結果として未就学児から小学校低学年までの層に効果的にリーチすることができました。実施前は1日100人程度の来訪を想定していましたが、実際は両日ともに250人以上の来訪がありました。イベント実施にあたり子どもたちに参加したいと思ってもらえる工夫として、回答するためのシールを子どもたち自身が選べるようにしたこと、答えてくれた子どもたちに対する景品を用意したことが効果的に働いていたと考えられます。今後同イベントで調査を実施する際には、これらの点を考慮し体制・聴取内容を検討していくことが必要です。

また、こども大綱では、「幼い頃から積み重ねられた主体的な自己決定あるいは意見表明の経験は、青年期から成人期に至る若者の意見表明や主体的な社会参画につながっていくという視点を持つことが重要である」とされています。今回は未就学から小学校低学年をターゲットとしていることから、意見を収集するだけでなく、主体的な自己決定や意見表明を通じて、子どもたちに「話を聞いてもらった」という自己肯定感を持ってもらえるよう、注意を払って実施しました。

居場所が楽しい理由は、「友だちや仲間、やさしい大人がいるから」が最も多かったです。居場所の創出について、交流や友だちづくり、適切な大人のサポートという視点を含めて推進していくことが必要です。更に、居場所で何ができるとうれいにかについてでも、「いろいろな人と出会えること」が最も多くなっていることから、やはり交流や友だちづくりは大切な要素です。

回答してくれた子どもたちの多くは、保護者とともに来訪してくれました。今回、パネルアンケートのポスターには、小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会様にご提供頂いた「たんけんマップ」を使わせて頂きましたが、たんけんマップを保護者に知っていただき、「大人が気付かなかった子どもの居場所」が地域にたくさんあることも知って頂きました。今回のイベントを通じて、子どもの居場所について考えて頂き、「子ども目線」の居場所を知って頂く機会にできたと考えますが、今後、子どもたちの居場所を大切にするような行動変容につながることを期待します。

また、「子ども自身がシールを選べる」という点は、保護者におおむね好評であり、こどもの意見を表明する権利についての理解の高さが感じられました。

(3) U30こがねい会議室における意見

①実施要項

- テーマ : あなたの居場所について
募集期間 : 令和6年6月17日(月)～7月8日(月)
募集対象 : ①市内在住・在勤・在学で、おおむね15歳から29歳の方(20人募集)
: ②住民基本台帳より、対象年齢の市民50名、追加で100名を抽出、案内状を送付
開催日時 : 令和6年7月20日(土)
: 13:30～15:30(適宜16:00ごろまで延長)
開催場所 : 小金井市役所第二庁舎8階801会議室
参加人数 : 29名(6チームに分かれてグループ協議を実施)

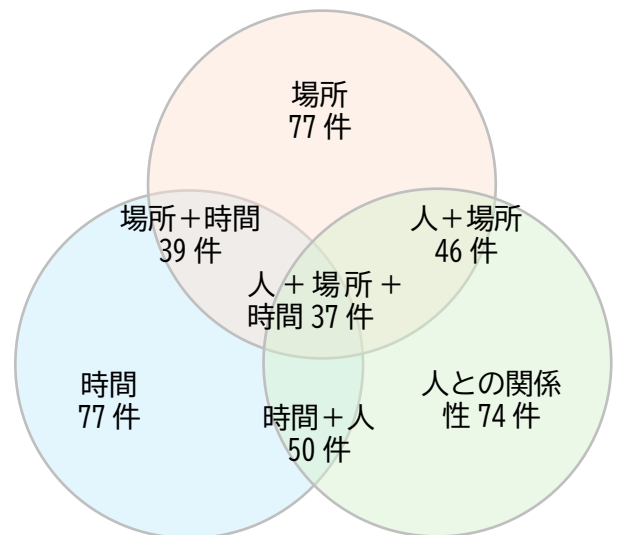


②実施結果

○あなたの「居場所」にはどんな要素が含まれますか。

参加者それぞれが自分の「居場所」を発表し、「人」「場所」「時間」のうちどの要素を含んでいるかを話し合ってもらい、その結果を集計しました。

■「居場所」に含まれる要素



○ワークショップの名前決め

今回のワークショップの名称について全6チームに提案してもらい、全員に6案の中から最も良い名前を選んでもらったところ「U30こがねい若者会議室」が最多でしたので、本ワークショップの名称として採用しました。

○ワークショップに参加して感じたこと、感想など。

意見をカテゴリ化して概観した結果、「居場所についての理解が深まった」が19件、「他者の理解につながった」が10件、「ワークショップを楽しめた」が7件、「交流の機会となった」が3件あり、そのほかには、「頻度を高めて欲しい」「現状の小金井市の改善点を出していく時間も欲しかった」という意見もありました。

○チームとして発表したいこと、市に聞いて欲しい意見など

意見として多かったものは、自由に勉強できるスペースが欲しいという要望と、イベント等を主催して交流できる場を作って欲しいという要望でした。

また、既存施設への要望としては、フリーwi-fiの強化、おむつ替えスペースの設置、駐輪場の無料化、創作やパフォーマンスをする場などが欲しいという要望などがありました。

③ワークショップ後のアンケート調査

○「居場所」を良くするアイデア

若者同士の交流があることといった意見が多くありました。これには、若者が自由に気軽に集まれる、といった物理的で常設といった性質のものだけでなく、祭りやイベントといったテンポラリーに行われるものへの要望も多くありました。また、まちづくりに参加したい、様々な世代とも交流したい、同世代のつながりが小金井に留まる理由になる、といった意見もありました。

勉強する場所が欲しいという意見が一定数ありましたが、一人でこつこつ勉強したい、静かに勉強するスペースが欲しいという要望があった一方、教え合うことができる勉強スペースが欲しい、ほどよい雑音のあるスペースで勉強したいという意見もありました。

○この若者ワークショップに参加した感想など

全体的な意見として多くの参加者に楽しんでもらえたようです。良かった点としては、様々な人と意見を言い合える、共有できる、新しい見方ができるようになった、といった考え方についての点、同世代・他世代と交流できる、参加者みんないい人で良かった、うなずいて話を聞いてくれたことが嬉しかったなど、人との関わりについての点などが多くありました。

同じようなイベントをやって欲しいという要望は、直接的な表現のあるものだけで28件中9件ありました。またやって欲しい理由としては、交流の機会として楽しかったという理由の他に、まちづくりに意見を言いたい、参加したいという理由もありました。

④実施結果からわかること

今回のワークショップは、参加者にとっておおむね好評で、交流の機会となったこと、他人と理解しあうことができたこと、などが好まれる理由として多くあり、更に、また実施して欲しいという意見の中には、まちづくりに意見を言いたい、まちづくりに参加したい、といったものもありました。こども大綱には、こどもや若者が意見を表明しやすい環境づくりの目的として、自己実現の後押しと社会参加への意欲を持ってもらうことが示されており、今回のこの機会は、その目的の達成と目指す結果に一定の成果があったことがうかがえます。更に、居場所に対する理解が深まった、という意見も多いことから、今回の機会を通じて、居場所に対する多様な価値観を持ち、地域での居場所を獲得する力を身に付けてもらう効果があったことがうかがえます。

参加者の物理的な居場所や勉強する場所への要望は多様なものとなっていました。例えば勉強するのであれば一人静かな場所が良いだろう、などといった既成概念に囚われず、市域のさまざまな場所を居場所や勉強場所として捉え、整備していくことが若者の利益につながっていくことがわかりました。

物理的な居場所だけではなく、イベントなどのテンポラリーな居場所を求める声も多くありました。また、イベントなどを通じて、同世代や異世代、地域との交流をし、ともにまちづくりをしていき、地域に愛着を持つことで小金井市に長く住んでいきたいといった要望もあるようです。今回の参加者である若者は、進学や就職などによる故郷や家族、友人との別離などを経験し、人や地域とのつながりを考える時期にあることが考えられます。若者に対して、地域とのつながりを確保する観点からイベントを推進していくことで、若者当人の充実につながるとともに、まちづくりに参加し、小金井市に長く住み続けてくれる市民となることにつながることが考えられます。

コラム1 (仮) 本町小学校6年生に聞きました！

コラム2 小金井(しょうがねい)を変えちゃう会(当初は(仮称)中学生サミットとして実施)

6 成果指標の状況

項目	成果指標	対象	R5 目標値	R5 現状値	達成度
計画全体	市の子育て環境や支援に満足している人の割合	未就学保護者	50%以上	41.3%	
		小学生保護者	50%以上	41.2%	
	自分のことが好きだと思う子どもの割合	小学生 中高生年代	— 70%以上	87.0% 73.0%	
基本目標1 子どもの安心・安全を守ります	困ったときの相談相手がいる子どもの割合	中高生年代	90%以上	84.7%	
		未就学保護者	65%以上	79.9%	
	小学生保護者	87.7%			
	中高生年代保護者 中高生年代	87.0% 74.2%		 	
基本目標2 子どものゆたかな体験と仲間づくりを支えます	子どもが自然、社会、文化などの様々な体験をしやすいと思う人の割合	未就学保護者	65%以上	70.7%	
		小学生保護者		65.0%	
	中高生年代保護者	52.4%			
	家や学校以外でここに居たいと感じる場所があることものの割合	小学生 中高生年代	— 90%以上	69.7% 56.0%	
基本目標3 子どもを産み育てる家庭を支援します	妊娠、出産、子育ての不安や悩みを相談できる人や場所がある人の割合	未就学保護者	98%以上	93.1%	
基本目標4 子育て、子育てに困難を抱える家庭を支援します	今後の暮らしに不安のあるひとり親家庭の割合	ひとり親保護者	80%以下	83.4%	
基本目標5 地域の子育て環境を整えます	子どもがのびのびと遊べる環境が整備されていると思う人の割合	未就学保護者	60%以上	70.4%	
		小学生保護者		60.4%	
		中高生年代保護者		48.3%	
基本目標6 地域の子育て環境を整えます	地域での子育て支援活動が充実していると思う人の割合	未就学保護者	60%以上	35.5%	
		小学生保護者		37.3%	